令和４年度

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」
「地域の特色を活かした環境学習支援事業」

実 施 報 告 書

新　　潟　　県
新　　潟　　市

目　　次

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」

１ 上越市立東本町小学校 ……４

見つめよう　わたしたちの 「 食 ・人・ 命 」

２ 上越市立国府小学校 ……８

・生活環境を守る

・新潟水俣病差別

３ 妙高市立新井中央小学校 ……１３

「食べること」と「生きること」

４ 五泉市立五泉小学校 ……１６

五泉の水博士になろう

５ 五泉市立五泉南小学校 ……２０

【４年総合的な学習】五泉市に生息する魚トゲソを通じて水と汚れなどの様々な関係について学ぶ。

【５年社会科】社会科の公害について学習する単元において、新潟水俣病の発生と被害について学ぶ。

６ 五泉市立川東小学校 ……２４

水の里　トゲソの里　大好きな川東

７ 五泉市立村松小学校 ……３０

五泉市に生息する魚トゲソや近くで起きた新潟水俣病を通して、水環境について学ぶ。

８ 五泉市立愛宕小学校 ……３４

「水とわたしたち」生活に欠かせない水。その水はどこからやってきてどこへ行くのか。そしてその過程でどのような問題や課題があるのか。五泉市に生息する魚トゲソ、新潟水俣病を手がかりにして、水の汚れや環境問題の基礎を学ぶ。

「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告書

９ 新潟市立濁川小学校 ……４１

学校の近くで栽培している米作りを体験し、地域の自然環境の良さや特色を見付け、自分たちが地域のためにできることを考えよう。

１０ 新潟市立桃山小学校 ……４５

地域に　そして人に優しく

１１ 新潟市立日和山小学校 ……５１

プログラミングでＳＤＧｓの解決を目指そう。（４・５・６学年：理科・道徳）

１２ 新潟市立女池小学校 ・・・５７
・自然環境を守るために、自分ができることは何だろう。
・差別や偏見をなくすために、自分ができることは何だろう。
１３ 新潟市立桜が丘小学校 ・・・６２
身近な地域の今と昔を比較して、私たちにもできる環境を守る取組を考えよう。
１４ 新潟市立大淵小学校 ・・・６８
「環境と人間のふれあい館」で新潟水俣病や水環境を知り、自分たちの住んでいる自然環境を調べよう。
１５ 新潟市立新津第二小学校 ・・・７４
新津川の水質を改善しよう。
１６ 新潟市立大鷲小学校 ・・８０
公害を乗り越えた地域では、環境を守り続けていくために、どのような取り組みをしているのであろう。また環境を守るために自分たちができることは何だろう。
１７ 新潟市立内野小学校 ・・８５
環境を守るために自分たちにできることを考えよう。
１８ 新潟市立赤塚小学校 ・・９１
「学校の近くの自然や水について調べよう。」
１９ 新潟市立中之口東小学校・・・９７
地域の宝の中ノ口川の自然や人との関りについて調べよう。
２０ 新潟市立南浜中学校 ・・・１０１
新潟水俣病についての学習を通して、環境保全や人権尊重について考えを深めよう。
２１ 新潟市立白南中学校 ・・・１０７
新潟水俣病に関する学習を通して、環境・人権・自分の生き方について考えよう。

小学校・中学校への
地域の環境学習等支援事業

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立東本町小学校	担当（職・氏名）	教諭　横尾　希
学習テーマ	見つめよう　わたしたちの「食・人・命」		
活動のねらい	毎日の私たちの「食生活」を見つめ直し、様々な人々とのかかわりや体験を通して、「食」の大切さや問題点、「人」のおもいや願いを理解する。「食」を自分自身の問題としてとらえながら、課題解決に向けて取り組んだり、これからの自分の食生活や生き方を考えたりする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

実際に生きた魚を捌いたり、田植え（バケツ稲）を経験したりする中で、食と命が密接に関係していること、そしてそれをつなぐものが「水」であることに気付いた。私たちにかけがいのない水が、人の命や生活を奪っていった新潟水俣病の学習へとつなげていった。学習を通して、体だけではなく、心も傷付いた新潟水俣病被害者に対する偏見や差別の解消に向けて自分にできることを考え、児童の実践的態度を養うことをねらいとした。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）新潟水俣病の概要を理解する。
（２）写真やＤＶＤ等の資料を活用し、阿賀野川は人々の生活と密着した命の川であることの理解を深める。
（３）現地学習会を通して、新潟水俣病を身近な問題として捉え、切実性をもちながら、事実について学び、考えていく。
（４）交流した方の実体験を基に、被害者のおもいや願いにおもいを寄せる。
（５）新潟水俣病被害者が受けた偏見や差別に憤り、差別解消のために行動しようとする気持ちを高める。
（６）新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために行動する。

○　活動詳細

実施期間	８月～３月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病について知る。	５	・ＤＶＤ「水俣病のあらまし」を視聴し、関心をもたせるとともに概要をつかませる。 ・新潟水俣病の原因や症状についてまとめ、自分の意見をもたせる。
胎児性水俣病について知る。	１	・母親の胎内で水俣病になる仕組みを理解させ、疑問をまとめたり、おもいを考えさせたりする。
現地学習会を行う。 ・語り部の講話 ・阿賀のお地蔵さん見学	９	・現地で学習すること、新潟水俣病問題に詳しい講師から詳しく教えてもらうことにより、資料では分からなかった発生当時の様子について考えさせる。

現地学習会のまとめをし、発表する。	3	・交流した語り部や被害者の症状や教えてもらったことを振り返らせ、被害者のおもいについて自分の考えをまとめさせる。
差別解消に向けて大切なことを考える。	2	・被害者の身体や心の痛みについて考え、そのおもいに寄り添いながら、今も続く差別の現実に改めて気付かせる。 ・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために大切にしたいことを考えさせ、行動しようとする気持ちを高める。
差別解消に向けて行動する。	4	・新潟水俣病被害者に対する差別をなくすために自分ができることを実践させる。

○　協力団体・協力者等

・安田患者の会事務局　旗野秀人さん
・環境と人間のふれあい館
・語り部　権瓶良雄さん
・新潟水俣病被害者　水沢洋さん

○　成果と課題

［成果］

・事前学習での学びを更に深めて身近な問題としてとらえるために現地学習会を行った。実際に阿賀野川を見学したり、語り部の方から話を聴いたりした。その結果、児童は阿賀野川流域に暮らす人々にとって生活に欠かせない大切な川であった「命の川」が「魔の川」となったことを実感することができた。そして、その川が人々の体をむしばんでいったことに憤ったり、病気が人の心まで変えてしまったことに驚きを感じたりして、病気と差別に苦しむ被害者の心に共感することができた。

・語り部の権瓶さんや水沢さんからの話を基に学習し、新潟水俣病の公式確認から５０年以上経った今も続く偏見や差別の事実と向き合い、偏見や差別が続いている要因や、差別に立ち向かう被害者を支えている仲間やおもいに気付いた。宿泊体験学習での学びが基になり、より被害者におもいを寄せることができた。差別解消のために大切なことや自分にできることを考えることができた。



［課題］

・２日間を通して水俣病の学習をいろいろな角度や立場で学ぶことができた。しかし、上越市に住む児童にとって、新潟水俣病の被害者に対する差別は身近ではない。学びを日常生活にも結び付け、行動につなげていけるような手立てや支援がもっと必要であると感じた。

・社会科の学習「公害病」について学ぶことで、新潟水俣病への関心が更に深まっていくと考える。単元を入れ替え、公害病の学習を行ってから、新潟水俣病の学習に入っていけるとよい。



（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立東本町小学校	**5年2組（32 人）**	**11月11日**	**同和学習**	**教諭　横尾　希**

主題名：新潟水俣病の被害者に対する差別や偏見をなくすための行動

ねらい：新潟水俣病に対しての偏見や差別に憤るとともに、周りの人々の理解が原動力となり、差別に立ち向かう生き方を決意した被害者のおもいに共感することを通して、偏見や差別をなくすために自分ができることを考え、行動しようとする態度をはぐくみます。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
１０	※資料前半を読む。 ○50 年以上、自分の病気のことを黙っていた水沢さんは、どんなおもいをもっていたのでしょう。	・50 年間一人で痛みをかかえていて、苦しい。 ・痛みも苦しいけれど、差別される方がもっとつらいと思って、誰にも言えなかった。 ・家族に伝えると、皆が切ないおもいをすると思って、言えなかった。	新潟水俣病被害者の体験を基にして作成した資料
２０	※資料後半を読む。 ○50 年以上、自分の病気のことを黙っていた水沢さんが病気のことを公表したのはなぜでしょう。 ○病気のことを公表した後の水沢さんは、どんな気持ちだったでしょう。 ○「命続く限り、この体験を伝えないといけない」と思い、語り部になったのはなぜでしょう。 	・職場の人が自分の苦しみを分かってくれる優しい人だったから。 ・職場の人が自分のことを理解してくれたから。 ・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくしたいというおもいから。 ・気持ちが楽になった。 ・やっと病気のことを分かってもらえる。 ・公表した後も差別や偏見が周りに起こるのではないかと不安だった。 ・自分のような悲劇を二度と起こしてほしくない。伝えなければならないと考えたから。 ・新潟水俣病について、正く理解してもらえば、差別はなくなる。今も名乗り出られない人の支えになる。 ・自分が多くの人に支えてもらった。今度は自分が支える立場になりたい。	

２０	※水沢さんからのビデオメッセージを聞く。 ○今日の学習を通して、差別をなくすために自分ができることを考えましょう。 ☆新潟水俣病について学ぶ前の自分を振り返らせ、正しく知らないことが、偏見や差別につながっていること、自分の心の中にも差別や偏見の心があることに気付かせる。 	・新潟水俣病の学習をしなければ、自分も周りの人のうわさを信じて、差別する側の人になっていたかもしれない。差別をなくしていくために学び続けていく。 ・水俣病被害者の方は何も悪くない。差別される理由は何もない。相手の気持ちを考えて行動していきたい。 ・新潟水俣病の正しい知識や事実を家族や身近な人に伝えていく。 ・偏見や差別に負けずに、未来のために語り続けている人がいることを多くの人に知ってもらう。 	新潟水俣病被害者の体験を基にして作成した資料

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病について正しく知ることが大切だと思いました。そして、元気にすごせる人だけでなく、病気や差別、偏見で苦しみ、つらい思いをしている人たちがいることを、いつも考えていきたいです。うその情報やうわさがあっても信じず、正しいことを知るよう、学んでいきたいです。
・これからもずっと、水俣病について忘れずに、他の人に伝えていき、差別をしないことが、今自分ができることだと思います。水俣病の方がそばにいたら、この勉強を思い出し、あたたかな行動にうつしたいと思いました。今日の勉強で、「周りの人の支え」が水沢さんにとって、勇気や自信を与えたものだと思ったので、苦しんでいる方がいたら、自分もあたたかい言葉をかけたり助けたりと、すぐ行動していきたいです。
・新潟水俣病の差別、偏見で苦しむ人たちがまだたくさんいることを、改めて知りました。水俣病は、人には見えにくい症状があって分からないことが多いから、勉強をして正しい知識を理解していきたいです。苦しんでいる方を支えていくことが自分のできることだと思いました。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立国府小学校	担当（職・氏名）	教諭　齊藤　亜紀子
学習テーマ	・生活環境を守る ・新潟水俣病差別		
活動のねらい	・新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組み、周囲の状況等を正しく理解する。 ・新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知り、偏見や差別をなくすために考える。		

○　新潟水俣病とのかかわり

５学年社会科「環境とわたしたちのくらし」では、四大公害病の水俣病に焦点を絞って学習した。熊本県八代海沿岸で起きた水俣病が、11 年後に新潟県阿賀野川流域で起きたことに注目させ、離れた２つの場所を関連付けることで、水俣病の被害と全国各地での公害をなくす取組を自分たちの生活と重ねて考えさせるようにした。その上で「環境と人間のふれあい館」での現地学習会を行い、新潟水俣病を身近な問題として考えることができるようにした。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）社会科「環境とわたしたちのくらし」
（２）新潟県の新潟水俣病に関するパンフレットや冊子、ＤＶＤ等の資料の活用
（３）「環境と人間のふれあい館―新潟水俣病資料館―」での現地学習会を通して、事実から考え、新潟水俣病を身近な問題として捉える
（４）新潟水俣病被害者の思いを受け止め、これからの社会形成に向けて大切なことを考える

○　活動詳細

実施期間	１０月～１２月	
主な学習内容・活動内容	**時間**	**指導・支援の内容**
社会科 「環境とわたしたちのくらし」	１７	・身の回りの自然環境と自分たちのくらしとのつながりについて理解させる。 ・公害をなくすための取組について調べさせる。
現地学習会事前学習 新潟水俣病について知る	1	・新潟県「未来へ語りついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～」を活用したり、ＤＶＤ「水俣病のあらまし」を視聴したりして関心をもたせ、概要をつかませる。
現地学習会を行う ・語り部の講話 ・環境と人間のふれあい館見学	3	・新潟水俣病被害者との出会いを通して被害者の思いや生活の様子にふれることで、被害者の思いに共感させる。
現地学習会事後学習 学習したことをまとめる	2	・現地学習会での学びを振り返らせ、水俣病被害者の思いや生き方、人間と環境との関係について自分なりの考えをまとめさせる。
人権教育 差別解消に向けての気持ちを高める	1	・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために自分にできることを考えさせる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館
・語り部　新潟水俣病被害者の会　曽我　浩さん、権瓶　良雄さん

○　成果と課題

（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

［成果］

・公害病の原因である工場廃水と環境問題について 50 年以上経過した現在でも多くのことを考える教材となるよう熊本県八代海沿岸で起きた水俣病と新潟県阿賀野川流域で起きた新潟水俣病の学習と関連づけて公害問題について考えた。人間と自然の関係を学習する中で、未来を考え、環境を守る取組や「持続可能な開発目標（SDGs)」の達成に向けた態度について関心を高めた。

・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別の問題と、児童にとって身近な新型コロナウイルス感染症の問題を比較して考えることで、理解を促した。「コロナ差別」の問題を取り上げる時には「悪いのはウイルスで、感染した人ではない」という学びや、「差別された人の気持ちを考える」という人権感覚を育成する取組の積み重ねが、水俣病被害者に寄り添って考えることにつながり、差別解消に向けた気持ちを高めることができた。

・語り部の方から話を聞くことで、水俣病被害者の症状は時間の経過や被害状況が多様であることを実感した。語り部の方との出会いをもとにした人権教育を実践することができた。「差別の苦しみと周囲のかかわり」「正しい理解の大切さ」「人と人とのつながり」について自分なりの考えをもつことができた。

［課題］

・移動時間等の関係で「環境と人間のふれあい館」での語り部との交流や施設見学の時間確保が難しかった。事前、事後の学習を充実させることでより深く学ぶことができるようになると考える。

＜現地学習会後の児童の感想＞

・語り部さんのお話を聞いて、水俣病は、とてもおそろしい病気だと分かりました。人の健康や生活、仕事をうばい、人の心まで傷つけたからです。想像以上にとてもつらく、苦しかったのだろうと思いました。阿賀野川は生活のいろいろなことに役立っていました。知らないうちにメチル水銀が川に流されていて、知らないうちに食べて脳や体を壊してしまった人がいたことを、いつになっても忘れずに絶対に起こさないで、次の世代に伝えていきたいです。

・同じことを繰り返さないために自然を大切にしていきたいです。一番の間違いは、環境を壊した証拠もあるのに素直に頭を下げて、なかなか認めなかったことだったと思います。人が苦しんでいるのに、差別や誹謗中傷でさらに傷つけるのはひどいことだと思いました。知らなかったことがたくさん知れてよかったです。

・語り部さんを最初に見たとき、健康な人に見えてびっくりしました。頭痛やめまい、耳鳴りや手足のしびれなど人によって様々な症状が出て、見ただけでは分からないつらさがあると分かりました。症状が軽い人に「ニセ患者」「金がほしい」などと差別や偏見があって、差別がこわくて自分から言い出せなくなってしまう人がたくさんいるんだと知り、差別は、許せないことだと思いました。水俣病資料館で学習して、やっぱり水俣病は悲しい事件だと思いました。

＜人権教育の授業後に、子どもたちが考えたこと＞

・新潟水俣病被害者の方たち（小武さん・星野さん・権瓶さん）は、ずっと変わっていない。変わったのは差別している周りの人たちだと気付きました。差別をなくすには、相手のことを理解して、よく知らない人たちに分かってもらうことが大切だと思いました。新潟水俣病の症状で体がつらいだけでではなく、差別で心が傷つく悲しみや痛みがなくなるように勉強したことを他の人にも伝えたい。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立国府小学校	5 年（62 人）	12 月 19 日	道徳	教諭　齊藤　亜紀子

主題名　新潟水俣病の被害者に対する差別をなくすために

ねらい　新潟水俣病被害者が受けている現実を直視し、差別に立ち向かう小武さんを支えていることに思いをよせることを通して、周りの誤った見方や考え方を変化させた要因に気付き、差別をなくすために大切にしたいこと考え、差別の解消に向けて行動しようとする態度を育てる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	指導上の留意点
15	新潟水俣病被害者への差別や偏見を見抜く　【資料　前半】		・導入で語り部さんとの学習会を振り返らせ、資料前半を読む
	○おかしいと思ったことに線を引きながら読みましょう。	・同級生（周りの人）の水俣病に対する冷たい態度（コソコソと話す、目をそらす）。 ・自分の居場所がないこと。 ・周りの人の見方は昔から変わっていない。	
	新潟水俣病被害者の気持ちに共感するとともに周囲の差別への憤り		・体の苦しみだけでなく、心の苦しみも続く被害者の気持ちに共感させる。
	○小武さんはどんな気持ちだったでしょう。	・悲しい。体だけでなく心もつらい、苦しい。 ・魚を食べただけ、水俣病はうつらないのに…。どうして、冷たく差別されるの…。さびしい。	
10	差別が続いている要因		・新潟水俣病が公式認識されて 50 年経っても差別が続くことに気付かせる。
	○水俣病被害者への差別が続くのはなぜでしょう。	・近づかない、かかわらないと壁を作り、水俣病のことをよく知らない、知ろうとしないから。 ・水俣病はうつる、ニセ患者、お金がもらえてよいなど間違った考えやうわさを信じ、本当のことを確かめないから。	・周りの間違った考えや偏見、無理解や無関心が差別につながることをおさえる。
10	周りの変化　【資料　後半】		・小武さんの言葉や行動により、変わっていった周りの人の考え方に気付かせる。
	○同級生（周りの人）は、なぜ変わったのでしょう。	・いろいろな人と話したり、小武さんのがんばりをちゃんと見たりして、自分の間違った考え（差別する心や態度）に気付いたから。 ・水俣病のことを正しく理解してほしいという小武さんの気持ちが伝わったから。	
10	差別解消に向けた実践行動		
	○差別をなくすために自分が大切にしたいことを考えましょう。	・自分たちが学習した新潟水俣病の正しい知識やどんなことがあったのか（事実）を他の人に伝えていきたい。 ・差別される人ではなく、する人たちが変わらないといけない。つらい思い、困っている人がいたら仲間になって話を聞いて、力になりたい。 ・人の心の痛みや苦しみが分かっていないから差別する。人の気持ちを考えて、相手を大切にしたい。	・偏見や差別をなくすためには周りが変わることが大切であることをおさえる。

＜資料＞

心まで病気にならないように

私は、今年で８５歳になりました。人間と環境のふれあい館で語りとして、皆さんのような小学生から大人の人、たくさんの人たちに、私のことを少しでも分かってもらえたらと願い、お話をしています。思い出すとつらい気持ちになることもありますが、新潟水俣病とは、どんな公害病なのか、被害者がどんな思いで生きてきたのか、本当のことを知ってもらい、みなさんと「人が幸せになるために」大切なことは何かを考えたいです。

（前半）

私が、被害者の会の副会長なった４年後。60 歳（還暦）の時、同級会の案内が届きました。水俣病になってからというもの、同級生に会うことはほとんどありませんでした。久しぶりに会う同級生と昔の思い出話や孫の話ができると思い胸をわくわくさせて､同級会当日､会場のドアを開けました‥‥。

しかし、そこにあったのは、私を見る冷たい視線でした。私を見ながらコソコソと話をする人、目をそらす人、自分が水俣病だと隠している人もいました。

私が水俣病だということを、被害者の副会長をしていて水俣病と闘っていることを、同級生みんなが知っていました。楽しみにしていた会場に、私の居場所はありませんでした。

（後半）

同級会の後も私は、今までと同じように活動を続けました。64 歳から「語り部」となり、65 歳の時には海外で講演もしました。72 歳では被害者の会会長になり、私の活動を多くの人が支えてくれました。

ある日、スーパーで、こちらを見る視線が気になりましたが、私はその人の横を通りすぎました。その時、

「節子さん。」

私は、どきっとしました。同級生でした。

「テレビ見たよ。あんた立派だよ。水俣病に負けんでね。」

そこには、昔と変わらぬ笑顔の仲間がいました。その後、何度か同級生と会うことがあり、応援の声をかけてくれました。

そして、あの同級会から 17 年が過ぎた 77 歳の時、喜寿のお祝いにみんなで集まろうと同級会の案内が届きました。17 年前の苦い思い出が頭をよぎりましたが、久しぶりに同級生に会いたくなったので行ってみることにしました。不安の中、受付に行くと

「おぅ、久しぶりだなぁ。この前テレビで見たぞ。お前もたいしたもんだぁ。」

と何人かの仲間が声をかけてくれました。テーブルにつくと、次々に仲間が声をかけてくれました。

「俺は、節子がテレビで頑張っているのを見て元気をもらったんだ。俺は、仕事頑張るから、負けんで頑張れ。」

写真撮影の時には、

「節子さん。あんたが真ん中よ。」「そうだ。真ん中においで。」

と言ってくれました。そこには、17 年前とは違う仲間がいました。子どものころと変わらない仲間がいました。

新潟水俣病が 1965 年 6 月 12 日に公式確認されてから今年で 56 年。差別がなくなったわけではありません。でも、少しずつ変わってきています。

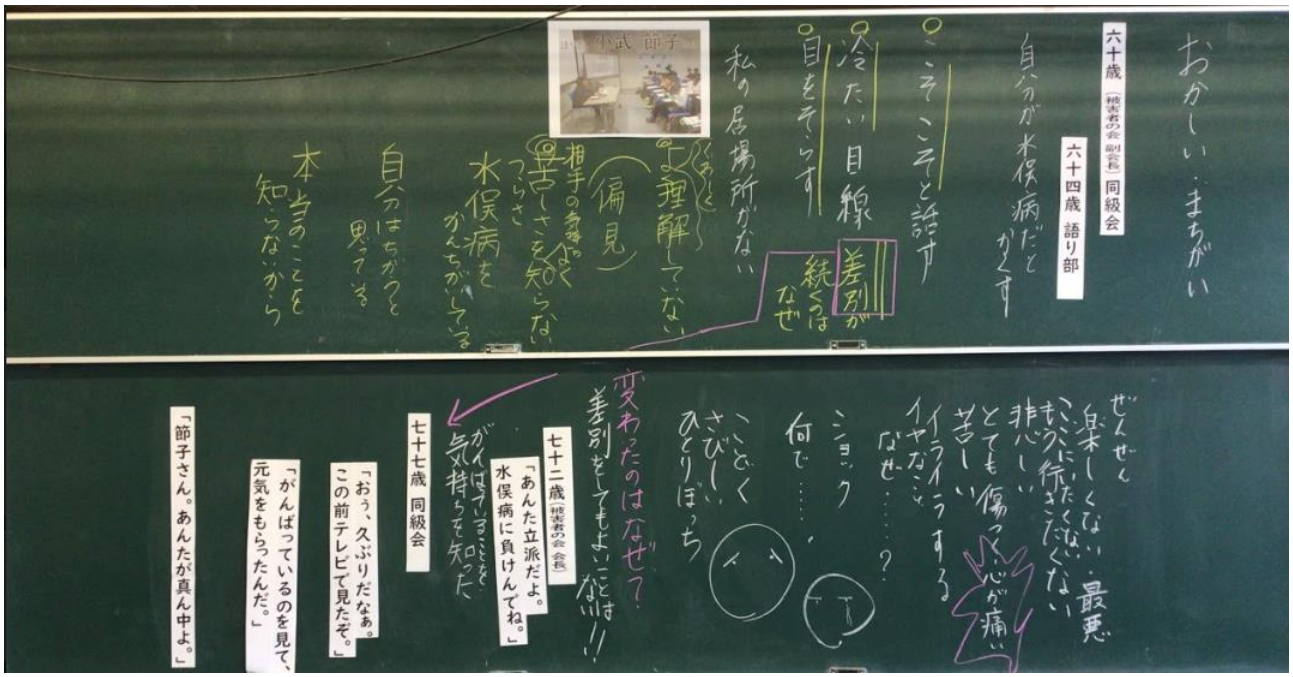
2016 年「東本町小学校同和教育研修会」　一部改作

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・差別をなくすには、相手のことをよく知ることが大切だと考えました。なぜなら、小武さんが本当はとても努力をしていたり、心が傷ついて悲しい思いをしていたり、周りの人が相手のことを知らなかったら差別をしてしまうかもしれないからです。それに、その人のことを知ったら、今まで気付かなかった違う一面を知るかもしれないからです。私は新潟水俣病の学習をして、知ることが大切だと分かりました。

・まず、その人がどう感じているか、相手の気持ちを想像することが大切だと思います。自分の決めつけや相手の気持ちは分からないと勝手に思い込んでしまって、後から気付いてひどいことをやったり、やられたりしてしまってから気付いたのでは遅いからです。相手の悲しい気持ちやめてほしいこと、楽しみにしていたことを知ることで、その人を助けて親切にしたいです。

・小武さんの同窓会の出来事を教えてもらって、新潟水俣病の被害者の痛みやつらさまで、詳細をよく聞いて理解したいです。ぼくは、差別をなくすには、間違っていることがあれば、反省してやり直すことを大切にしていきたいです。みんなと楽しく過ごすためにできるように、自分の言いたいことをみんなに伝えて、相手の気持ちもよく聞いて、仲良くしていきたいです。



（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	妙高市立新井中央小学校	担当（職・氏名）	教諭　松本　紀子
学習テーマ	「食べること」と「生きること」		
活動のねらい	・米作りやニジマス調理体験を通して、多くの人の労力と生き物の命で自分が生かされていることに気付き、そのために行う人間の行為の意味を自身に問い直そうとする態度を育む。 ・新潟水俣病に関する学習や体験活動を通して、人間と食、身近な環境とのつながりについて関心をもち、偏見や差別の解消のためにできることをしようとする気持ちを高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・資料活用により、阿賀野川流域の人々の生活や「新潟水俣病」の原因・症状・被害・裁判等についての理解を深める。
・「環境と人間のふれあい館」への施設訪問を行う。その際、語り部の方から直接体験談を聴き、偏見や差別の現実を深く学ぶ。
・「新潟水俣病」にかかわる学習を根拠にして、差別をなくすために自分自身で出来ることを考え、文章に表す。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

①米作り農家の方の指導を受けながら、米作り活動を行った。（４月～１０月）
　※②と同じ扱いで、米作りでも「水」が必要である。
②栽培した米や生きている魚の調理を通して、命をいただくことについて考えた。（９月）
③自然教室で源流探検を体験することで、川が多くの命を育んでいること、「川（水）」は自分たちの生活に欠かせないことを実感した。
④資料を活用し、阿賀野川がその地域の人々の生活に密着した川であることや、新潟水俣病の概要を学んだ。（９～10 月）
　授業を通して新潟水俣病の被害者の思いや願いを理解したり、差別解消のために行動しようとする気持ちを高めたりした。（９～10 月）
　※資料をもとに、水俣病に関連した人権教育、同和教育の授業を行った。
⑤④で学んだことや差別をなくすために自分にできることを作文にまとめた。
⑥①～⑤で学んだことや考えたことを、学習発表会にて保護者に伝えた。（２月）
⑦ＳＤＧｓの１７の目標の中で、この１年間取り組んできたことにかかわり、かつ関心の高い目標について、自分の考えを意見文にまとめた。（２月）

○　活動詳細

実施期間	令和４年９月～　令和５年２月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病に関する学習	1	DVD 資料などを用いて、新潟水俣病の原因・被害の様子などを理解した。
〃	4	語り部の講話を聴き、被害者の心情を理解し、差別解消のために自ら行動する気持ちを高めた。 環境と人間のふれあい館の展示物を見ながら説明を受けることで、新潟水俣病への理解を深めた。
〃	5	新潟水俣病に関する新聞記事から、被害者が心や体の苦しみに耐えながら前向きに生きる姿に共感し、自らできることは何かを考えた。 新潟日報社よりゲストティーチャーを招いて、被害者・加害者ではない立場からできることについて考えた。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
妙高市立新井中央小学校	**5年1組（34 名）**	**10月31日**	**同和教育関連学習**	**教諭　松本 紀子**

主題名　「自分にできることを考える」

ねらい　『素顔』を企画・連載した坂井さんの話を聞くことを通して、新潟水俣病は当事者だけの問題ではなく、社会全体で考えていく問題であることに気付き、自分にできること、また人とのかかわりにおいて大切にしていくことを考え、「自分も みんなも 明るく うれしく よかったね（当校 合言葉）」になるように行動しようとする気持ちを高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	・米作り、源流探検、ニジマス調理を振り返り、全て水が必要で、川が育んできた命であることにつなげる。（掲示物） ・被害者のみなさんが前向きにいきておられたことを確認する。（掲示物）	・小武さんや水沢さんの新聞記事を扱った授業やかかわりのある体験時の思いを記録した掲示物や自分の振り返りシートを見ながら、してきたことや感じたことを思い出す。	
	◎新潟水俣病に負けず、明るく生きている方がいらっしゃることを、私たちは『素顔』で知ることができました。この『素顔』にはどんな思いがこめられているのでしょうか。		
		・新潟水俣病で苦しむ人がいなくなるように。 ・新潟水俣病をもっと知ってほしい。	
20	『素顔』を作られた坂井さんのお話を聞きましょう。		
	・話されている内容で、おさえたいことはタブレットで記録し、テレビ画面に提示できるようにする。	・疑問に思ったことやさらに知りたいことは、質問して直接聞く。 ※せっかくの機会なので、参観者にも促す。	
15	◎坂井さんが記事にしてくださったから私たちは知ることができました。記者である坂井さんだからこそできたことです。私はこの問題をみんなと考えたいと思って取り上げました。教師である私だからこそできたことです。次はみなさんの番です。子どもであるみんなだからこそできることがあるはずです。「自分も みんなも 明るく うれしく よかったね」になるように何ができますか。		
	・書いている内容を確認しながら教室内を支援して回る。 ・発表することも、「子どもであるみんなだからこそできること」の一つであることを伝える。	（次ページ「授業後の子どもたちの考え」参照）	
	新潟水俣病に限らず、心無い一言で苦しんでいる仲間がすぐそばにいるかもしれません。お互い、もと周りに関心をもって、自分にできることはないか考え、行動していきましょう。		

＜活動の様子と板書＞





授業後の子どもたちの考え等（授業終末での「何ができるか」の問い掛けに対して）

- 心を支える。何かをあげるのは難しいけれど、言葉をかけて、勇気や元気をあげるのはできる。
- 人を信じることや見た目で人を決めつけない。
- 自分が知った情報を正しく伝え、広める。
- （心無い、人を傷つける）うわさをそれ以上広めない。
- 学ぶ→考える→交流するができる。他の学年などに伝えることができる。
- 「自分がこんなこと（被害者の方がされたこと）をされたら…」と考えて生きていく。
- 少しでも差別を減らしたいので、校内に水俣病についてのポスターや新聞を掲示する。
- 何でもかんでも大人たちにしたがわず、自分が思ったことをやればいいと思う。
- 「新潟水俣病の人だから差別はしない」ではなく、「新型ウイルスにかかってしまった人たちも差別しない」にしたい。
- この勉強をして、分かり合えるよう友達との関係を築けるようになりたいと思った。
- 差別や人を傷つけることをしない。あいさつをして、まず学校をよくする。そして、中学校、高校、大学につないでいって、社会をよくする。
- 差別をしている人たちに反論することができる。注意することもできる。
- 私たちはまだ子どもだけれど、学校で起きたいじめやけんかなどを止めたい。
- 私たちにできることは、障害や病気の方を特別扱いしないで、私たちと変わりない人として付き合うこと。私たちと同じような生活をしているのに、特別だとか、ふつうの人じゃないと思うのは、悪気はなくても、すでに差別しているから。
- 差別をほんの少しでも減らせたら、新聞にのっている方たちのように被害者が堂々と楽しく生きられるんじゃないかと思った。今、水俣病について知れるからこそ、被害者が水俣病だと明かせるように、私たちもできることに取り組まないといけない。
- 私たちは被害者の人に背中をおしてもらっているから（前時：小武さんは仲間の背中を押すのと同時に私たちの背中も押してくれているのかも…と押さえたことから）、私たちも被害者の方々に「差別なんかおそれずに、自分の歩みたい人生を歩んで」と声をかけて背中をおしたい。
- 若者だからいろいろなことができる可能性がある。チャレンジしたい。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	五泉市立五泉小学校	担当(職・氏名)	教諭・雑賀　千佳 浮田　俊輔
学習テーマ	五泉の水博士になろう		
活動のねらい	○　絶滅危惧種トゲソの生態と環境について学び，人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。 ○　川の汚れが何に起因しているかを知り，水の汚れの測定や浄化について学ぶことで，環境を守る意識を高める。 ○　「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんのお話などから，新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り，環境を守る意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

水の汚染が希少淡水魚トゲソに危機を及ぼしていること，また水を汚したことにより近くの阿賀野川で新潟水俣病が発生したことを知る。そして，患者さんの支援をしている旗野秀人さんのお話を聞いたり，「阿賀のお地蔵さん」の絵本や新潟水俣病学習用動画を見たりして，学びを深める。

○　活動概要

◇　人間が川を汚したことが原因で，トゲソが絶滅の危機に瀕していることを知る。そして，人間が生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを学ぶ。また，水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。

◇　新潟水俣病の患者さんの支援をしている旗野秀人さんの話を聞き，公害の実態を知る。そして，このような環境問題に対し，どのように考え，行動していったらよいかを調べ学習を通して考える。

○　活動詳細

実施期間	令和４年５月～１２月（４５時間）	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソについて知ろう	６	・トゲソについて，インターネット等で調べる。 ・「トゲソの会」の方から，トゲソの生態について学ぶ。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。
トゲソの里を訪ねよう	６	・「トゲソの会」の方の案内で，トゲソの生息地を訪問し，トゲソや周囲の自然の観察，外来種の駆除活動を行う。 ・気付いたことや学んだことをワークシートにまとめる。
水の循環について知ろう 水の汚れを調べよう	５	・「トゲソの会」の方から，水の循環について学ぶ。ＣＯＤパックテストで，３種類の水の汚れを調べる。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。
水の浄化実験をしよう	５	・五泉市理科教育センターの所員の方を講師として，水の浄化について学び，どうしたら水を汚さないようにできるのか考える。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。 ・五泉市理科教育センターの方に，学習の感想やお礼の気持ちを伝える手紙を書く。

新潟水俣病について調べよう	８	・新潟水俣病について，インターネットやパンフレットで調べ，ワークシートにまとめる。
旗野さんのお話を聞いて考えよう	５	・旗野秀人さんによる「阿賀のお地蔵さん」の絵本の読み聞かせや新潟水俣病についての話を聞き，新潟水俣病の実状について理解を深める。 ・旗野さんに，学習の感想やお礼の気持ちを伝える手紙を書く。
学習したことを新聞にまとめ，発信しよう	１０	・五泉の水環境について学んだことや伝えたいことを新聞やスライド，ポスターなどにまとめ，発信する。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人　五泉トゲソの会　中村吉則様　齋藤明様

五泉市理科教育センター　専任所員　武藤常男様　協力員　長谷川大輔様

新潟水俣病安田患者の会　旗野秀人様

○　成果と課題

【成果】

・「トゲソの会」や旗野さんの協力により，トゲソや新潟水俣病について体験的に学ぶことができ，児童が身近な水環境や自然について，関心をもって学習に取り組む姿が見られた。

・学習を進める中で，児童に「きれいな水を守るために自分たちにできること」を考え実践していこうという意識が芽生え，今回の学習と自分の生活とを結び付けて考えようとする姿が見られるようになった。

【課題】

・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される時期と学習活動の時期が重なり，特に「発信」の活動が不十分になってしまった。

・水の循環や浄化は，４年生の後半の理科や社会で学習することと重なっており，学習時期を工夫することで，より理解が深まると思われる。



トゲソを知る



トゲソの里見学



水の循環・ＣＯＤ



浄化実験



旗野さんのお話



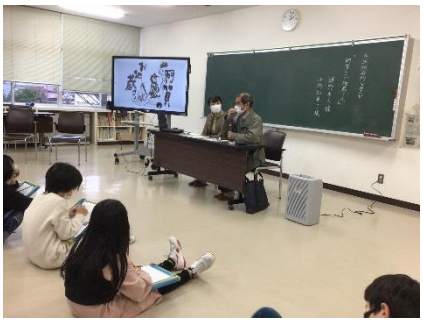
作成した新聞・ポスター

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉小学校	**4年生2クラス（68名）**	**12月8日**	**総合学習**	**教諭　雑賀　千佳** **浮田　俊輔**

主題名　五泉の水博士になろう

ねらい　「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんのお話から，新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り，環境を守る意識を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
20	○旗野秀人さんを紹介する。 ○旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしてもらう。	●読み聞かせを聞く。	・「阿賀のお地蔵さん」のプリント ・パワーポイント（絵本の挿絵）
20	旗野さんに質問しましょう。  	●挙手して，質問する。 ●ワークシートにメモを取りながら，話を聞く。 【子どもたちの質問】 ①どんなしょうじょうが出るのですか。 ②かんじゃさんは，何人くらいいるのですか。 ③人間だけでなく，動物にもしょうじょうが出るのですか。 ④今も苦しんでいる人がいるのですか。 ⑤治った人はいるのですか。 ⑥治す方法はあるのですか。 ⑦なぜ差別が起きたのですか。 ⑧なぜ，この絵本を作ろうと思ったのですか。	
5	○振り返りを書かせる。	●授業を通して学んだことや感じたこと，考えたことをワークシートに書く。	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・今日，旗野さんのお話を聞いて，新潟水俣病のことが分かりました。今までこんな病気があるなんて知りませんでした。

・水俣病のことが前より分かりました。直接お話を聞けて，よかったです。

・水俣病は痛いことを感じないこと，食中毒だということ。しびれをやわらげる薬しか出ていないことが分かりました。治す方法が見つかっていないなんて，つらいです。

・水俣病は，人だけでなく，魚や動物もかかることが分かりました。私はねこをかっているので，ねこも病気になると聞いて悲しくなりました。水俣病が治る薬が，早くできてほしいです。

・旗野さんのお話を聞いて，お母さんのおなかの中の赤ちゃんも新潟水俣病になることが分かりました。新潟水俣病は，とても大変な病気だと思いました。

・「阿賀のお地蔵さん」というのは，旗野さんの気持ちがこもったお地蔵さんだと思いました。

・「阿賀のお地蔵さん」のお話が心に残りました。旗野さんの話を聞いて，「もう二度とこんなことが起こらないように」と思いました。

・水がよごれることでこんな病気になるなんて初めて知りました。水をよこさないようにしたいと思いました。

・痛くてねむれないなんて，大変だなと感じました。こんな病気をはやくなおすことができるようにしてほしいです。

・同じ村の人なのに，仲が悪くなってしまう人がいるのが悲しくなりました。

・これから，こんな病気で死んだり苦しんだりする人が出ないように，みんなでかんきょうを大切にしていきたいです。

・旗野さんは，この水俣病のことをみんなに知ってほしいと思って絵本を作ったのがすごいと思いました。いろいろな人にこの本のことを知ってほしいと思います。

・旗野さんのお話の中で，病気はなおらないけど，好きなことをしたりして気持ちで痛みを感じないようにしている人がすごいと思いました。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	五泉南小学校	担当(職・氏名)	4年　教諭　石本恵美里　他2名 5年　教諭　長谷川由佳　他1名
学習テーマ	４年総合的な学習…五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れなどの様々な関係について学ぶ。 ５年社会科……社会科の公害について学習する単元において、新潟水俣病の発生と被害について学ぶ。		
活動のねらい	４年…きれいな水にすむ魚トゲソについて学び、人間が生活する上で川などの自然にどれだけ負荷をかけているかを知ることができる。川などの汚れの原因を知ることにより、水の汚れの測定や浄化について学ぶことができる。 ５年…「阿賀のお地蔵さん」の話と旗野秀人さんの話を通して、新潟水俣病は防ぐことのできた病気で、差別や未認定で苦しんでいる人がいること、二度と同じ過ちを繰り返さず、地域の絆を取り戻したいという願いを知ることができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

４年…人間が川を汚したことが原因でトゲソが絶滅に瀕していることを知る。そして、人は生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。これらの環境問題に対して一人一人がどのように考えたらよいのかをグループで考える。

５年…社会科の授業で公害について学び、阿賀野川を汚染して新潟水俣病が発生した事例を学ぶ。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

４年…五泉に生息する絶滅危惧種トゲソの生態を学んだ。子どもたちは、トゲソは簡易ＣＯＤパックテストなどにより、家庭からの排水汚れが絶滅の原因であることを知る。そして、トゲソだけでなく、近くの阿賀野川で工場排水によって新潟水俣病が発生したことについても学んだ。その後、水の浄化実験を通して、水を汚さないためにはどうしたらよいかを考えた。

５年…阿賀野川で起きた公害について、その背景や新潟水俣病の被害に関する話を聞いた。

※４年生は、葛飾区金町小学校・松上小学校との学習交流会で、学習の成果を発表した。

○　活動詳細

４年生は４回にわたってトゲソの関連で現地訪問、授業、実験を行った。またトゲソのビオトープで生息数調査を実施した。５年生は旗野秀人さんから、「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしていただき、新潟水俣病について、子どもたちの質問に答えていただいた。

実施期間	令和４年６月～令和５年２月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
① 6 月 8 日（水） 4 年生	9:35　～ 11:30	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？ 何でトゲソはいなくなったのか？
② 6 月 13 日（月） 4 年生	9:35　～ 11:30	トゲソの生息地の見学。 水温を計測、地下水を味わう、ザリガニ駆除の手伝い。

③ 6 月 20 日（月） 4 年生	8:30 ～ 12:15	水の循環。水の旅を考える。水の汚れを調べる。ＣＯＤテスト 3 種類の水実験。
④ 9 月 7 日（水） 4 年生	9:35 ～ 12:15	校内ビオトープ「南の泉」のトゲソ生息数調査。 生き物調査・水生植物の調査。
⑤ 2 月 6 日（月） 4 年生	10:40 ～ 12:15	葛飾区金町小学校・松上小学校の 5 年生、葛飾区サケを守る会の方々との学習交流会。
⑥ 2 月 28 日（火） 5 年生	10:40 ～ 11:25	旗野秀人さんによる「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせ。新潟水俣病に関わる質問に答えていただく。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人五泉トゲソの会　葛飾区サケを守る会　旗野　秀人さん

○　成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

４年生…五泉市に生息する身近なトゲソという淡水魚を通して、水の循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化について学ぶことができた。新潟水俣病を含め、私たち人間がいかに水を汚してきたかを学び、一人一人が環境の保護がいかに大切かを意識するようになった。また、葛飾区との学習交流を通し、環境保全について学びを深めることができた。

５年生…旗野秀人さんからお話を伺うことで、今も新潟水俣病に認定されずに苦しんでいる人たちがいることを知ることができた。また、新潟水俣病のことを多くの人に知ってもらい、二度と起こさないでほしい、地域の絆を取り戻したいという旗野さんの思いにふれることができた。

【課題】

４年生…校内ビオトープやトゲソ生息地での活動が中心となり、新潟水俣病や阿賀野川については話を聞くだけになった。今後、早出川の水質調査や、阿賀野川の調査活動などを通して、探究範囲を広げ、５年生の新潟水俣病の学習につなげていきたい。

５年生…新潟水俣病の社会科の最後の単元で、調べ活動に多くの時間をかけることができなかった。

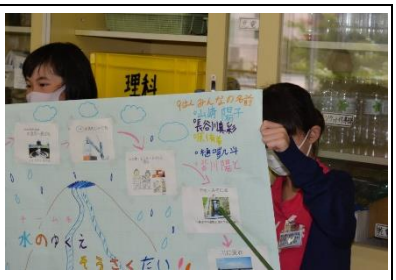
【活動成果参考写真】



① 6 月 8 日トゲソを知る



②6 月 13 日生息地見学



③6 月 20 日水の循環を考える



④9 月 7 日生息数調査



⑤2 月 6 日葛飾区との交流会



⑥2 月 28 日新潟水俣病学習

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉南小学校	**5 年 1･2 組（71人）**	**2月28日**	**社会**	**教諭　長谷川由佳**

単元名　**環境をともに守る**

ねらい　**「阿賀のお地蔵さん」の話と旗野秀人さんの話を通して、新潟水俣病は防ぐことのできた病気で、差別や未認定で苦しんでいる人がいること、二度と同じ過ちを繰り返さず、地域の絆を取り戻したいという願いを知ることができる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
25	・旗野秀人さんに自己紹介をしてもらう。 ・旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしてもらう。  ・「阿賀のお地蔵さん」の登場人物やお地蔵さんについて，解説をしてもらう。	○スライドにしたテレビ画像を見ながら，静かに話に聞き入る。 ○「太い眉毛のおっちゃん」は，旗野さんだったのか。 ○調べたときに分かった「千唐仁」というところが出てきた。 ○お地蔵さんは，２つあったんだ。 ○「水俣病」は，人が起こした災害なら防ぐことはできなかったのだろうか。 ○人が起こした災害なら，防がなければいけない。 ○２つのうち１つのお地蔵さんは，熊本の水俣市から石を運んで作られたんだ。	・「阿賀のお地蔵さん」のプリント ・パワーポイント（絵本の絵）
15	旗野さんに質問をしよう。 ・事前に新潟水俣病についての質問を考えさせておき，質問をするようにさせる。 	○水銀による中毒は，日本だけでなく外国でも起きていたんだ。 ○水俣病は，体のしびれや痛みとともに，人からの差別で心の痛みもあったんだ。 ○ツツガムシ病に対するお地蔵様の隣にお地蔵様を置いたのは，みんなが仲良くなるように願ったためなんだ。 ○水俣病は，水銀による中毒が原因の病気だから，自然に治ることはないんだ。 ○水俣病は，工場から出る排水が原因だったから，人の健康	

		を考えた排水の基準を決めて排水するようになったんだな。 〇裁判でお金をもらったことで和解したと思ったのに，それが仲違いの原因になるなんて，辛いことだ。 〇今も差別や患者がなくなったわけではないから，絵本を作ったりして伝えてくれているんだな。	
5	・振り返りを書かせる。		

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・旗野さんの話を聴いて，水俣病の怖さを知りました。そして，水俣病も苦しいけれど，周りからの差別も苦しいことがよく分かりました。

・裁判は１３年も続いたこと，みんなが仲良くすることを願ってお地蔵さんを立てたことがよく分かりました。

・水銀を作っていた工場が，川に水銀を流し，川にいる魚を食べることで水俣病になってしまったことが分かりました。おなかの中にいた赤ちゃんも，お母さんが魚を食べたことで病気になってしまうなんて，悲しいことだと思いました。

・水俣病は怖い病気だと思っていたけれど，うそをついていないのに，「うそつき」と言われたりする悲しい病気でもあると感じました。

・水俣病は，人が引き起こしたことだと分かりました。偏見は，絶対にだめだと思います。

・水俣病についての裁判が１３年もかかったのに，認められなかった人がいることに疑問を感じました。旗野さんが教えてくれた「水俣病資料館」に行って，水俣病についてもっと知りたくなりました。

・水俣病は，５０年前くらいの病気なので，今はないと思っていたけれど，今も苦しい思いをしている人がいることが分かりました。人が起こした病気で，差別にもつながっていて，悲しくなりました。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立川東小学校	担当(職・氏名)	教諭・江畑　正平
学習テーマ	水の里　トゲソの里　大好きな川東		
活動のねらい	トゲソや身の周りの環境についての調査活動、それらを守る取組をしている人々とかかわる探究的な学習を通して、 ① トゲソの生態や生息環境、自分たちの生活とのかかわりについて理解させる。 ② 課題の解決に必要な情報を収集・比較・分類・関連付けて考える力や表現する力を育成する。 ③ 進んで生物や人々にかかわり、それぞれが暮らしやすい環境にしていこうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・水環境が侵された歴史、罪のない人々が昔も今も苦しんでいる事実を正しく理解する。
・阿賀野川が今のような状態に再生するまでに、たくさんの人々の努力があったことを理解する。
・水環境を守るために自分ができることを考える。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）トゲソハウス（ビオトープ）の清掃、維持活動の中から、トゲソの生態や生息環境、使われている水などに興味をもつ。
（２）トゲソの会の講師とともに、トゲソの生態や生息環境、水の循環、水の浄化などトゲソにかかわる学習をし、トゲソに関する知識を深める。
（３）トゲソの生息地の水質、環境調査を行う。また、外来種の駆除活動にも参加する。活動を通して、人が自然（水環境）を維持、守っていく必要があることを理解する。
（４）学校近くの小川（新江川）の水質調査、トゲソや水生生物の生息数調査を行い、身近な水環境について理解する。
（５）水がどのようにして届けられ、処理されているかについて理解する。(社会科との関連)
（６）環境と人間のふれあい館の見学、あがのがわ環境学舎の方との交流を通して、新潟水俣病についての正しい知識を身に付ける。また、水環境保全の大切さや、阿賀野川が再生するまでに、たくさんの人々の努力があったことを理解する。(社会科との関連)
（７）自分たちの学んだことをどのように伝えるか考え、発表する。また、総まとめとして「新潟水俣病環境作文コンクール」に出品する。

○　活動詳細

実施期間	２０２２年５月　～　２０２３年２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソハウスの清掃活動 トゲソの観察	５	トゲソ・水草・水の観察、清掃などの活動を通して、トゲソや水に興味をもつ。
トゲソや水についての学習会、学習会の振り返り	２０	トゲソの生態、水の循環や浄化方法、トゲソの生息地の水質調査、外来種の駆除活動、トゲソや水生生物の生息数調査などを通して、トゲソや水を大切にしようとする心情を高める。

上下水道の仕組みの理解	５	水の循環や浄化方法について、社会科の学習と関連付けながら学ぶ。
新潟水俣病学習 ・新潟水俣病教師用指導資料集及びあがのがわ環境学舎よりいただいた資料をもとに社会科と関連させて実施	１５	阿賀野川が人々の暮らしと深い関わりがあったことや、新潟水俣病の症状や発生原因を学ぶ。 新潟水俣病に関する施設の見学を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付ける。 新潟水俣病で患者さん側が勝ったことが、歴史的なものであったことを理解する。 阿賀野川を再生させるために、たくさんの人々の協力があったことを理解する。 患者さんたちが一番苦しかったのは、いわれのない差別を受けたことであったことを理解する。
発信活動 学習のまとめ	２０	トゲソや水環境、新潟水俣病に関して学んだり調べたりしたことをまとめ、発信する。 新潟水俣病が、完全に終わったわけではないことを理解する。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
・ＮＰＯ法人五泉トゲソの会（中村　吉則様）
・新潟県立環境と人間のふれあい館
・一般社団法人あがのがわ環境学舎（山崎　陽様）

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】
・校区にある清水や川の調査を通して、身近な環境の実態を知ることができた。そのため、切実感をもって、自分たちができることを考えようとする姿が見られた。
・トゲソの会、環境と人間のふれあい館、あがのがわ環境学舎など、たくさんの方の協力を得ながら体験的な学習を進めることができた。
・五泉市の水がきれいでおいしいということを知り、自分たちが当たり前だと思っていることが大変ありがたいことだと気が付いた。
・新潟水俣病による差別や偏見があったこと、患者さんや地域、家族の方の苦しみを知り、二度とこのようなことを起こしてはいけないと考えるようになった。
・阿賀野川が再生するまでに、たくさんの方の協力や努力があったことを知り、自分たちにもできることがあるはずだと考える姿が見られた。

【課題】
・可能であれば、実際に阿賀野川遊覧船に子どもたちを乗せ、阿賀野川の美しさを実感させたい。また、旧昭和電工鹿瀬工場や水銀が見付かった排水口などの見学を取り入れたい。
・校区にある清水や川の調査は、大変意欲的に子どもたちが取り組んだ。そのため、阿賀野川の調査活動も、可能であれば取り入れたい。
※前述の事項は、子どもたちの意欲付けに大変有効であると思うが、時数及び予算の検討が必要である。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立川東小学校	１クラス（２８人）	Ｒ４・１１・１０	社会科	教諭・江畑　正平

※自校教諭川上弘宜先生の先行実践を参考に行った。

主題名　　「原因となった工場は、どこにあった？」

ねらい　　新潟水俣病の原因となった工場が、患者が多数発生した阿賀野川の「下流」ではなく、遠く離れた上流にあったことを理解する。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	○「新潟水俣病」について確認しましょう。 ・症状　　・原因 ・阿賀野川の下流で発生 ・今も苦しんでいる方がいること	新潟水俣病について分かったことを発表する。 ・うまく言葉が離せなくなる ・メチル水銀が原因 ・新潟市に患者さんが多い ・水俣隠しがあった。	新潟水俣病教師用資料
25	○新潟水俣病の原因となった工場は、阿賀野川の「上流」「中流」「下流」のどこにあったでしょうか。 	自分の考えをノートに書いてから発表 「上流」「下流」に分かれた。 （「上流」と考える子ども） ・理科で川の水は上流から流れると習った。だから、上流にあるはず。 ・上流には、山が多い。だから、山から流れていったと思う。 ・上流の方が水銀がたくさんあって、だんだん少なくなるんじゃないか。 （「下流」と考えた子ども） ・新潟市には、工場の地図記号がある。 ・人口が多い。患者さんも多い。 ・山に工場はないんじゃないか。	地図帳
10	○工場が、鹿瀬（今の阿賀町）にあったことを説明する。 ・その工場は昭和電工鹿瀬工場ということ ・約３０００人もの人が働く、新潟県内でも最大規模の工場であったこと	地図帳で場所を確認する。写真資料で当時の様子について考える。 ・こんな山の近くに工場があったのか。 ・こんなに人がいたの。 ・働いている人だけで、こんなにいる。 ・工場の近くだけで、十分生活できる。	工場全景 教師用指導資料

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

そんなに大きな工場があったなんておどろきました。とても大きな工場で力がありました。その工場がなくなると、困る人もいっぱいいました。だから、水俣かくしをしたのかな。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立川東小学校	１クラス（２８人）	Ｒ４・１１・１１	社会科	教諭・江畑　正平

※自校教諭川上弘宜先生の先行実践を参考に行った。

主題名　「どちらが勝った？」

ねらい　新潟水俣病裁判で患者さん側が勝ったことが、後の公害裁判に影響を与える歴史的なものであったことを理解する。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	○工場は、責任を認めたでしょうか。	・阿賀野川の上流にあるから認めなかった。 ・患者が多いのは新潟市だ ・認めなかった。	新潟水俣病指導資料
30	○工場は責任を認めず、裁判になりました。裁判は、工場、患者さん側のどちらが勝ったでしょうか。 ・工場側の言い分を覆す証拠を患者さん側が見付けたこと ・患者さん側について努力してくれた弁護士がいたこと ・最終的には、患者さん側の勝利となったこと ・この裁判が後の四大公害裁判に大きな影響を与えたことを補足説明した	自分の考えをノートに書いてから発表 おおよそ半々に分かれた。 （工場側だと考えた子ども） ・認めなければ関係ない ・数と金の力がすごい ・弁護士がついた ・働いている人もいる （患者さん側だと考えた子ども） ・証拠が体に残っている ・多くの人が味方についた ・工場の言い訳はおかしい ・いやなことをしたのは間違いない ・実際に苦しんでいる人がいる	教師用指導資料
10	○四大公害が起こった場所を確認しましょう。	地図帳で場所を確認する。 ・新潟県の裁判が他の地域にも影響を与えたのか。 ・患者さんのために頑張ってくれた人がいてよかった。	地図帳

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病の裁判で、がんばってくれた人がいました。

・患者さん側が勝てて安心しました。

・たくさんの人が裁判に協力したと思いました。



写真資料



トゲソハウスの清掃：藻を取ったり、落ちているごみをすくったりしました。



トゲソ学習会①：トゲソの生態について教えてもらった。その後、トゲソが数を減らしている理由を考えた。



トゲソ学習会②：水道水、新江川の水、米のとぎ汁の水質調査を行った。また、水の循環について考えた。



トゲソ学習会③：地域の清水を訪れ、自然の豊かさを実感した。外来種の駆除にも取り組んだ。



トゲソ学習会④：新江川の水質調査を行った。その後、水生生物の採集を行った。



トゲソ学習会⑤：フィルターや活性炭を使用し、汚れた水を浄化する実験を行った。



学校周囲の清掃：自分たちにもできることを考え、学校の周りのごみ拾いを行った。



学習発表会：トゲソを切り口に、ＳＤＧ’ｓについて考えたことを、全校及び保護者に発表した。



校外学習①：環境と人間のふれあい館を訪れ、新潟水俣病や阿賀野川のことにつて説明をしていただいた。



校外学習②「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをした。実際に、千唐仁にある「阿賀のお地蔵さん」を見学した。



校内での学習：いただいた資料を活用し、新潟水俣病の苦しみ、阿賀野川の再生の様子などを学習した。



校内での学習会：阿賀野川が再生するまでに、どのような努力、取組があったかを教えていただいた。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	五泉市立村松小学校	担当（職・氏名）	４年担任　清野美紀子
学習テーマ	五泉市に生息する魚トゲソや近くで起きた新潟水俣病を通して、水環境について学ぶ。		
活動のねらい	絶滅危惧種のトゲソの生態を学んだり、川の環境調査や水質検査、浄化実験を行ったりすることを通して、人間の生活が川や自然に負荷をかけていることを知り、水環境への関心を高める。 新潟水俣病について知り、健康的で安心な暮らしのために水環境を守ろうとする意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

人間の生活による水質の悪化によりトゲソが絶滅に瀕していることを知る。また、「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業や登場人物である旗野秀人さんのお話から、人間による水の汚染がトゲソなどの水生生物だけでなく、人間の健康や安全にも関わっていることを学ぶ。これからの活動を通して、未来の水環境を守るための方策について一人一人が考えていく。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

五泉に生息するトゲソの生態を学び、生息地を見学した。トゲソが絶滅に瀕しているのは水の汚れが原因であることを知った。簡易 COD パックテストや川の観察、水生生物調べなどにより、人間の生活に関わる排水が汚れの大きな原因であることを学んだ。さらに、水の浄化実験や水をめぐる世界情勢などの学習を通して、水環境維持のためには人々の努力が必要であることを学んだ。

「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業を行い、新潟水俣病患者や住人の苦しみについて考えた。新潟水俣病患者を支援している旗野さんから話を聞き、被害者への差別や偏見の事実や差別や偏見がさらに被害者を苦しめていることを知った。

学んだことを新聞やちらしにまとめ、掲示や配付をした。また、学習発表会や分水サミットで発表をし、水環境を守っていくことについて家庭や地域の人々に協力をお願いした。

○　活動詳細

トゲソの会の方に講師をしていただき、５回にわたってトゲソや水の環境に関わる授業、見学、実験を行った。旗野秀人さんに講師をしていただき、新潟水俣病について学んだ。

実施期間	令和４年６月～令和５年２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
①６月９日（木）	9:35～11:25	トゲソの生態や環境について知る。
②６月１６日（木）	9:00～12:00	トゲソの生息地の見学を行う。水温及び水路の観察とザリガニ駆除の手伝いを行う。
③６月２３日（木）	9:35～11:25	水の循環について考える。COD テストで３種類の水の汚れについて調べる。新聞にまとめ掲示をする。
④９月８日（木）	9:35～11:25	水の浄化実験を行う。水の汚染による新潟水俣病が起きたことを知る。
⑤９月１３日（火）	9:35～11:25	水の浄化実験を行う。水の汚染による新潟水俣病が起きたことを知る。
⑥１０月２３日（日）	9:20～9:50	学んだことを学習発表会で保護者や地域の人に向けて発表する。ちらしを配付する。

⑦１１月２６日（土）	午前中	学んだことを分水サミットで発表し、他校や市関係者に向けて発表する。（限定 YouTube 配信実施）
⑧１１月２８日（月）	14:05～14:50	「阿賀のお地蔵さん」を題材にした道徳授業を行う。新潟水俣病の被害者の心情について考える。
⑨１２月６日（火）	9:35～10:20	旗野さんから、新潟水俣病の話を聞く。
⑩２月下旬		水環境や新潟水俣病について学んだことを新聞やテキストにまとめ、学級や保護者に向けて発表する。

○　協力団体・協力者等

特定非営利活動法人五泉トゲソの会　安田患者の会　旗野さん　信濃川大河津分水資料館　樋口さん

○　成果と課題

【成果】

五泉市に生息するトゲソについて調べることや水の循環、水質調査、川の観察、浄化実験を通して、水環境への関心を高めることができた。また、水の汚れは人間の生活が起因することが大きいこと、きれいな環境を保つためには人々の努力が不可欠であることを学ぶことができた。

新潟水俣病などの事例を通して、人が水を汚染することで、トゲソなどの水生生物だけでなく、人の健康や安全もおびやかされることがあることを知った。また、道徳の授業や講師の方のお話から、新潟水俣病患者やその地域の人が苦しんできたことを学び、水の汚染で再び人々が苦しむことがないように自分たちにできることは何か、水環境を守ろうとする意識が高まった。

【課題】

水環境への意識が高まり、学んだことを様々な場で発表した。これらの呼びかけで、保護者や地域の人の意識がどのように変化したかが分かると、児童の学習もより一層充実する。アンケートなど、意識をさぐる方策を今後検討していきたい。

【活動成果参考写真】



①6 月 9 日トゲソを知る



②6 月 16 日トゲソの里見学



③6 月 23 日水の循環・COD テスト



④9 月 8 日水の浄化実験



⑤9 月 13 日滝谷川の観察



⑥10 月 23 日学習発表会



⑦11 月 26 日分水サミット



⑧11 月 28 日道徳授業



⑨12 月 6 日旗野さんのお話

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立村松小学校	**4年1組（19人）** **4年2組（19人）**	**11月28日** **11月29日**	**道徳**	**教諭　清野美紀子**

主題名　**みんなが仲良くくらしていくために　2―（2）思いやり・親切**

ねらい　**地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気付き、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。**

資　料　「お地蔵さんにこめられた願い」（新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために　新潟水俣病教師用指導資料集 P29～41）

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	阿賀野川のほとりの小さな村は、どんな様子でしたか。 ○教師による範読を行った後、水俣病にかかる前の村の様子を読み取らせる。	**●小さな村だけど、にぎやかで楽しそう。** **●川魚や野菜をおすそ分けし合っていて、とても仲がよい村だった。**	・読み物資料「お地蔵さんにこめられた願い」 ・仲良くしている村人の絵
5	強いきずなで結ばれていた村は、水俣病によってどうなりましたか。 ○水俣病の後の村の様子を読み取らせる。	**●仕事がなくなった。** **●みんなで話をすることが少なくなった。** **●みんなの心がばらばらになった。**	・怒ったり、悲しんだりしている村人の絵
10	病気に苦しんでいる上に、さらにかげ口を言われるAさんの気持ちを考えましょう。 ○ロールプレイ1を行い、かげ口を言われる患者役として感じたことを発表させる。	**●かなしい。何でみとめてもらえないのだろう。** **●（うそをついていると）決めつけられていやだ。つらい。**	・ワークシート
5	どうすれば、もとの仲のよい村にもどれるのでしょうか。 ○旗野さんの言葉を読み、旗野さんが仲のよい村にもどすために行ったことを伝える。	**●お地蔵さんが変えてくれるのではなく、自分たちがお地蔵さんを見て変わらないといけないんだ。** **●相手のことを考えた言葉がけが大切だ。**	・旗野秀人さんと「阿賀のお地蔵さん」の写真 ・旗野秀人さんの言葉
10	旗野さんの「相手のことを思った言葉」とは、どんな言葉でしょう。 ○患者にかける言葉を考え、ロールプレイ2を行う。言葉を言われたときの心情を発表させる。	●「だいじょうぶ。」と声をかけてもらい、心配してくれると思ってうれしかった。 ●「協力するね。」と言われてみかたがいると安心した。 ●「信じているよ。」と言われて、心強かった。	

10	自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙を書きましょう。 ○以下の中から相手を選んで、 自分の思いを手紙に書く。 ア　水俣病と認められずに かげ口を言われていた人 イ　かげ口を言っていた人 ウ　旗野さん		・手紙の用紙

授業後の子どもたちの考え等（手紙の中から一部抜粋）

【ア　水俣病と認められず、かげ口を言われていた人たちへ】
・水俣病と認められず、つらい思いをしましたね。きずつけ合うのではなく、昔のように仲よくくらしてほしいと思います。
・体はどうですか。かげ口を言われてつらかったですね。
・わたしは信じています。無理をせず、ゆっくり休んでください。苦しい生活かもしれませんが、わたしは応援しています。わたしはみなさんの味方です。
・かげ口を言われてつらかったですね。これからはやさしい人たちにめぐまれて、生きることができるといいですね。
・水俣病になり、差別をされてとても苦しそうでした。まわりがもっと水俣病のことを知って、かんじゃの苦しみを理解できたらいいと思いました。

イ　かげ口を言っていた人たちへ】
・自分が病気になってかげ口を言われたらどういう気持ちになるか考えてください。
・病気の苦しみを知らないのに、好き勝手を言ってはいけないと思いました。病気の人ががんばっているのに、「お金がほしいだけなんだろ。」と言うのはやめたほうがいいと思います。
・なぜ、水俣病と認めてあげないのですか。かげ口を言われて心が深くきずついた人もいます。少しでも信じてあげてください。仲のよい村にもどすために努力している人もいます。その人たちと協力して、仲のよい村にもどしませんか。
・その一言で、きずつく人がたくさんいます。自分がされていやなことや苦手なことを人にしないでください。水俣病にかかった人は苦しんでいるのに、なぜ、かげ口を言うのか意味がわかりません。仲がよかったのになぜ傷つけ合うのですか。
・自分がもし、本当のことを言っているのに、まわりが信じてくれなかったらどう思いますか。もっと相手の気持ちを考えて行動してほしいです。
・水俣病で苦しんでいる人たちにあやまってほしいです。

【ウ　旗野さんへ】
・元の仲のよい村にもどすためにお地蔵さんをたてることを考えたのがいいと思いました。旗野さんのねがいがこめられたお地蔵さんと思います。
・旗野さんのおかげで、かげ口を言う人が少なくなったと思います。水俣病で苦しんだ人も安心することができ、村の人と協力できると思います。
・相手のいたみを自分のいたみのように感じ、相手のことを思いやった言葉がけができるようになることが大切だと思いました。自分のことだけでなく、みんなのことも考えられるのが、すごくいいと思いました。わたしも自分のことだけでなく、まわりのことを考えて行動したいと思いました。
・村のために、お地蔵さんをたてるなど、いろいろなことをがんばっていていいですね。これで、水俣病になった人たちのいやな気持ちを消すことができるので、いいことをしたと思います。
・人々のためにお地蔵さんをつくり、地域を守ろうとしている旗野さんの気持ちがよく伝わってきました。
・旗野さんは村の人のことを考えるやさしい人だと思いました。わたしも見習いたいです。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	愛宕小学校	担当(職・氏名)	教諭・佐藤　将臣
学習テーマ	「水とわたしたち」 生活に欠かせない水。その水はどこからやってきてどこへ行くのか。そしてその過程でどのような問題や課題があるのか。五泉市に生息する魚トゲソ，新潟水俣病を手がかりにして，水の汚れや環境問題の基礎を学ぶ。		
活動のねらい	・身近にある川や山のはたらきを知り，水が循環しながら生活を豊かにしていることを理解する。 ・きれいな水にしか生息しない魚トゲソの生態やおかれている環境について知り，人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを理解する。また，川などの水の汚れの測定や浄化を体験することで，環境を守っていこうという意識を高める。 ・阿賀野川では新潟水俣病が引き起こされ，それによって生活ができない，差別や偏見に苦しむといった人々が存在していることを理解し，差別や偏見を許さないという意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・人間の豊かな生活によって様々な汚れを排出し，地球に多大な負荷をかけていることを学ぶ。近くの阿賀野川では水の汚染により新潟水俣病が起きたことを学ぶ。様々な環境問題に対してどのように考え行動していったらよいかを一人一人が調べ学習を通して考えていく。
・あがのがわ環境学舎の協力により，新潟水俣病についての学習会を実施する。
・「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居を見たり，「阿賀のお地蔵さん」の作者である旗野さんの話を聞いたりして，新潟水俣病で苦しんでいる人の心に寄り添い，差別や偏見を許さないという意識を高める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりについての内容にふれてください。）

・「山と川の学習会」講師：阿賀町 江花一実さん，あがのがわ環境学舎 山崎陽さん
　水はどこへ
　山や川のはたらき
・「トゲソの会との学習会」講師：NPO 法人五泉トゲソの会（中村吉則さん，後明和子さん）
　①きれいな水に棲む魚トゲソが五泉市に棲んでいること
　　人間の活動によってそれらの生物を絶滅の危機に追い込んでいること
　②トゲソの生息地を訪問
　　トゲソの観察
　　水路の水温の測定，湧水の見学
　③水道水・川の水・家庭の汚れた水の 3 種類を簡易ＣＯＤパツクテストで調査
　　家庭排水が環境を汚す原因の一つであること
　　水がどのように地球上で循環しているか「水の循環」
　　阿賀野川で新潟水俣病という公害が起きたこと
　④活性炭を用いての水の浄化実験
　　道具を使ってきれいな水に浄化
　　水を汚さないためにはどうしたらよいのか
・「新潟水俣病もっと知ろう，学ぼう」講師：あがのがわ環境学舎 山崎陽さん
　バーチャル資料による新潟水俣病についての学習会
・「旗野さんとの学習会」講師：旗野秀人さん，小林知華子さん
　絵本「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせ
　旗野さんが大切にしてきたこと
・「学んだことを発信しよう～水とわたしたち」
　10 月 22 日（土）学習発表会における劇の発表
　　※人数制限のため，講師の方々は 10 月 19 日（水）の公開リハーサルに招待

○　活動詳細
・前期（導入）４～　６月…オリエンテーション。自然から学ぶ。トゲソから学ぶ。
・中期（追求）７～　９月…新潟水俣病から学ぶ。
・後期（発展）９～　12 月…学習発表会での発表。一人ひとりの課題意識に応じた調べ学習。
各活動については以下に詳細を示す。

実施期間	令和４年５月～10 月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
①　５月２５日（水）	8:30 ～ 10:05	講師：阿賀町 江花一実さん，あがのがわ環境学舎 山崎陽さん ①水はどこへ　②山や川のはたらき　③水の循環
②　６月　７日（火）	13:55 ～ 15:30	講師：トゲソの会　中村吉則さん，後明和子さん ①SDGs から絶滅危惧種の保全を学ぶ ②トゲソのクイズ・紙芝居　③トゲソってどんな魚？ ④どうしてトゲソはいなくなったのだろう。
③　６月１７日（金）	9:30 ～ 11:30	講師：トゲソの会　中村吉則さん，後明和子さん ①トゲソの里での現地学習（水温測定，湧水試飲，ザリガニ駆除）
④　６月２４日（金）	13:55 ～ 15:30	講師：トゲソの会　中村吉則さん，後明和子さん ①水の循環･水の旅を考える　②水の汚れを調べる　③ＣＯＤテスト（3 種類の水実験）　④新潟水俣病の発生
⑤　６月２８日（火）	13:55 ～ 15:30	講師：トゲソの会　中村吉則さん，後明和子さん ①水の浄化実験　②どうしたら水を汚さないようにできるのか。 ③グレタ・トンベリーさんの活動
⑥　７月　５日（火）	8:30 ～ 10:05	講師：あがのがわ環境学舎　山崎陽さん ①新潟水俣病とは　②阿賀野川流域を地図で確認 ③食物連鎖（阿賀野川の川魚）　④被害の４つのポイント　⑤工場の製品と公害を学ぶ　⑥当時の社会と公害の関係　⑦映像作品の鑑賞
⑦　９月　６日（火）	8:30 ～ 10:05	講師：旗野秀人さん　小林知華子さん ①新潟水俣病についてのお話　②「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居 ③質疑応答
⑧１０月１９日（水）	10:25 ～ 11:10	学習発表会　事前公開リハーサル お世話になった講師の方々を招待
⑨　１０月２２日（土）	9:00 ～ 10:00	学習発表会「水とわたしたち」

○　協力団体・協力者等
・阿賀町　江花一実さん
・特定非営利活動法人五泉トゲソの会　中村吉則さん　後明和子さん
・あがのがわ環境学舎　山崎陽さん　橋本めぐみさん
・安田患者の会　旗野秀人さん　小林知華子さん
・映像作家　小森はるかさん

○　成果と課題

【成果】

今年度は単元前期・中期・後期を位置付け，より学習内容を明確にした単元構成とした。

このことにより，児童の課題意識を膨らませながらも，単元のねらいから大きく外れることなく学習を展開することができた。新潟水俣病の学習会を夏休み前に実施することで，夏休み中に県立環境と人間のふれあい館に足を運んだり，調べ学習で理解を深めたりする児童が見られた。

新潟水俣病を学習する時期を早めたことにより，じっくりと理解を深めることができた。

また，例年に加えて新たな講師をお迎えする機会をいただき，より学習に段階性をもたせることができた。講師の方々も SDGs にふれる等，資料を常に更新されていて，指導者としても大変参考となった。

【課題】

今年度単元構成を修正したので，学習内容や講師との連携等，次年度に確実に伝達していく。

また，新型コロナウイルス感染症によって制限されていた諸活動の規制緩和に伴い，自粛していた現地学習をどのような形で盛り込んでいくかについても検討していく必要がある。

【活動成果参考写真】



トゲソを知る学習会



トゲソの生息地見学



水の循環・簡易ＣＯＤ検査



水の浄化実験



新潟水俣病学習会



旗野さんから学ぼう



事前公開リハーサル



学習発表会

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立愛宕小学校	４年１組（35 人）	7／15（金）	道徳	教諭・佐藤将臣

1　主題名　「みんなが仲よくくらしていくために」（B-7 親切，思いやり）

2　ねらい

地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して，相手の立場を想像し，相手のことを考えた言動の大切さに気付き，自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

3　資料「お地蔵さんにこめられた願い」

（新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために…新潟水俣病教師用指導資料集 pp. 29～41）

4　本時展開

時間	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	（資料前段を読む）		本文配付
	T：当時の「阿賀野川のほとり」はどんな様子ですか。	C：仲良く暮らしていた。 C：強い絆があった。	資料１を掲示
	（資料中段を読む）		
	T：強い絆で結ばれていた村は，水俣病によってどうなってしまいましたか。	C：バラバラになった。 C：差別があった。 C：幸せでなくなった。	資料２を掲示
	T：どうすれば元の仲の良かった村に戻れるか，考えましょう。		
	T：ロールプレイ１をしてみましょう。	C：（交代でロールプレイ１をする。）	ワークシート
	T：Ａさん役の人はどんな気持ちでしたか。	C：心が傷ついた。 C：責められている。	
	（資料後段を読む）	C：水俣病の人の気持ちが分からないのか。	資料３を掲示
	T：旗野さんはどのような方法で村を元通りにしようとしたのでしょうか。	C：お地蔵さんを作った。 C：お地蔵さんに村が元に戻るように願いを込めた。	
	（旗野さんの言葉を読む）		
	T：プリントのＢに相手を思いやった言葉を書き，ロールプレイ２をしてみましょう。	C：（交代でロールプレイ２をする。） C：味方になってくれて嬉しい。 C：心の傷が治ったようだ。	ワークシート 下段に記入
	T：Ａさん役の人はどんな気持ちでしたか。	C：患者の方は悪くない。助けてあげたい。	
	T：自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで手紙を書きましょう。	C：差別や偏見は許せない。 C：旗野さんの行動のおかげで絆が戻ってくるようで嬉しいな。	

＜裏面に児童の感想＞

授業後に子どもたちが書いた作文（抜粋）

【水俣病と認められず，かげ口を言われていた人たちへ】



- 新潟水俣病と認められず悲しい気持ちがよく分かります。かげ口に負けず幸せになってください。
- かげ口ばかり言われて悔しかったですよね。自分を信じてくれる人がいて嬉しかったですよね。
- かげ口を言われながらもがんばって生きたみなさんはすごいです。新潟水俣病と認められなかった人に，できるかぎりのことをしたい気持ちでいっぱいです。
- 新潟水俣病と認められずにかげ口を言われた人は大変な思いをしましたね。でも，みなさんのことを信じてくれる人もいるので安心してください。
- 大変な思いをしてくらしていることを私たちは知っています。私たちは新潟水俣病のことをわすれられないように，大事に話を伝えていきたいです。
- 苦しかったでしょうね。もう大丈夫ですよ。安心してね。あなたのことを信じています。

【かげ口を言っていた人たちへ】

- 自分がかげ口を言われたらどんな気持ちになるでしょう。言われた人の気持ちになってください。
- 旗野秀人さんが作ったお地蔵さんを見て，今までのかげ口をやめて，相手にあやまってください。そして，やさしく声をかけて，はげましてあげてください。また前のように強いきずなで結ばれた楽しい村にしてください。
- 新潟水俣病の人を思いやってあげよう。かげ口を言っている人を注意しよう。新潟水俣病の人を信じて，平和な村にしよう。

【旗野秀人さんへ】

- 阿賀のお地蔵さんを作ってくださって，ぼくはホッとしました。ぼくも大人になったら，旗野さんみたいにやさしい大人になりたいです。
- 旗野さんがお地蔵さんを作ってくれたおかげで，かげ口を言う人がいなくなって，平和な世界になりました。本当にありがとうございます。
- 旗野さんがお地蔵さんを作らなかったら，ずっとかげ口が続いていました。旗野さんとお地蔵さんのおかげで，村が平和になりました。
- 旗野さん，お地蔵さんを作ってくれてありがとうございました。これで，新潟水俣病の人も安心してくらせます。これからもお地蔵さんを守っていきたいです。
- 阿賀のお地蔵さんを作ってくれたから，村の人たちがまた強いきずなで結ばれ，にぎやかになったと思います。ありがとうございました。
- 村の人たちは阿賀のお地蔵さんを今でも大切にしていて，それほど新潟水俣病の人たちにとってはありがたいことだったんだなと感じました。
- お地蔵さんのおかげで村のきずなが元にもどったことがすごいなと思いました。新潟水俣病の人たちの生きる希望になったかもしれないなあと思いました。
- だれかがいじわるをすればいじわるが広がる。でもだれかがやさしいことをすればやさしいことが広がるんだな。旗野さん，お地蔵さん，ありがとう。

夏休み明けに，子どもたちは旗野さんと出会い，詳しくお話を聞くことができました。

地域の特色を活かした
環境学習支援事業

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立濁川小学校	担当(職・氏名)	教諭・早津　乃理子
学習テーマ	学校の近くで栽培している米作りを体験し，地域の自然環境の良さや特色を見付け，自分たちが地域のためにできることを考えよう。		
活動のねらい	米作り等の農業体験を通して，身の回りの自然環境に関心をもち，豊かな自然環境を大切に守っていこうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・米作りに使われている水の多くが阿賀野川の水であることから，新潟水俣病とのかかわりを意識させる。新潟水俣病の語り部の方から講話してもらったり，「環境と人間のふれあい館」を訪問したりすることを通して，新潟水俣病への正しい知識や理解を深める。

○　活動概要

・お米博士になろう（課題設定→調べ学習→まとめ→発表）
・お米を育てよう（田植え→観察→稲刈り→脱穀→調理実習でのお米炊き）
・新潟水俣病について考えよう
　① 新潟水俣病とは（担任による授業）
　② 語り部さんからの講話
　③ 「環境と人間のふれあい館」の訪問
　④ 新潟水俣病についてのまとめ

○　活動詳細

実施期間	５月～　１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
お米博士になろう！	１２	① 課題設定 ② 調べ学習（本・インターネット，自分の体験等） ③ ロイロノートを使ったまとめ ④ 発表会（４年生に向けて発信）
田植え体験をしよう！	３	地域の方，ボランティアの方と共に田植え体験
稲の成長を観察しよう！	１	稲がどれくらい伸びたのか，どんな変化があったのか観察
稲刈りをしよう！	３	地域の方，ボランティアの方と共に稲刈り体験
脱穀の作業を知ろう！	３	農業機械を使った脱穀の仕方を知る
育てたお米でご飯を炊こう！	２	家庭科の学習で行う米炊きを育てたお米で行う
水と環境のかかわりについて考えよう！	６	① 新潟水俣病の概要について知る ② 語り部さんの講話から新潟水俣病がもたらした影響，

		人々の苦しみを知る ③ 「環境と人間のふれあい館」の見学をし，新潟水俣病への知識・理解をより深める ④ 自分たちにできることを考え，まとめる

○ 協力団体・協力者等

・ＪＡ新潟市
・環境と人間のふれあい館
・濁川生産組合

○ 成果と課題

〈成果〉

・濁川地区は，阿賀野川に接していることもあり，新潟水俣病について，非常に身近に感じることができる。社会で干拓によって変化した河川の様子や米作りでの用水としての役割など，普段から阿賀野川とのかかわりを意識して学習してきたこともあり，他人事ではないのだと考える児童が多かった。
・語り部さんからの講話を通して，被害にあった人々が体だけでなく，心も傷つけられたのだということをより実感を伴って理解することができた。また，差別については，子どもたちの人権教育にもつながり，道徳と併せてより深く考えることができた。
・社会，理科，道徳，総合など横断的な学習を行うことができた。新潟水俣病について学習したことで，公害や人権教育等，今後の学習で再度取り上げることで，子どもたちの中で風化されずに，意識し続けることができる。
・米作りと深いかかわりのある水（阿賀野川）がかつては汚され，生物の体に悪影響を及ぼしたことを知り，阿賀野川を大切にすることが，私たちが生きていくために必要不可欠なのだということに気付くことができた。自校の米作りと新潟水俣病を関連させて学習することができたことで，環境保全の意識を高めることにもつながった。

〈課題〉

・自分たちにできることを考えるところまではできたが，行動するところまでは十分な授業時間を確保することができなかった。
・４年生への発表という発信する場で，米作り→阿賀野川→新潟水俣病等のかかわりについても詳しく触れることができればよかった。

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立濁川小学校	**5年1組（37人）**	**11月1日**	**総合**	**教諭　髙野　寛**

・主題名　新潟水俣病について知り，私たちにできることは何か考える。
・ねらい　新潟水俣病の原因や歴史，差別を受けてきた患者の方々がいることを知ることによって，他人事として捉えるのではなくこれからの自分にできることは何かを考えることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5分	○阿賀野川は皆さん知っていますか？	・知っている。私たちの住んでいる近くを通る川だ。 ・広きて大きい川だ。	未来へかたりついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～
	○昔そこで起きた公害病を知っていますか。	・知らない。 ・どこかで水俣病という公害病を聞いたことがある。	
5分	○今日は，新潟水俣病について学習していきます。		
	課題　新潟水俣病について知り，私たちにできることを考える。		
10分	○新潟水俣病は，いつ・どこで・どのようにして起こったのか資料を見て自分なりにノートにまとめてみましょう。	・いつ→１９６４年頃 どこで→阿賀野川の下流域 どのようにして→阿賀町にあった化学工場がメチル水銀を含んだ排水を処理しないまま阿賀野川に流していた。メチル水銀で汚された阿賀野川の魚を食べた人たちが病気になった。	
5分	○公害の被害にあった人たちはどのようなことに苦しんだのですか？	・手足がしびれる。 ・手がふるえる。 ・耳が聞こえにくい。 ・味やにおいがわからない。 ・言葉をうまく話せない。	
5分	○被害にあった人たちやその家族はどんなつらい思いをしてきましたか？	・何も悪くないのに病気になってしまってつらい思いをした。 ・差別によって被害にあった人やその家族まで苦しんでいる。	

		・偏見がある。	
10分	○私たちにできることはなんでしょうか。班の人と話し合いましょう。	・被害にあった人が一番つらいからその気持ちをしっかり理解することが大事。 ・新潟水俣病について正しい知識を身に着けることが大切。 ・思い込みや噂などで決めつけることをせず，差別を絶対にしないという強い思いが大事。 	
	まとめ　差別を絶対にしない。正しい知識をもつ。偏見をなくす。		
5分	○学習の振り返りをしましょう。		

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・わたしは，もともと水俣病という病気を知ってもいなかったし，聞いたこともありませんでした。だけど，資料を読んでみて予想よりも大変だなと思いました。理由は，悲しい思いをしている患者に対して「どうせ金欲しさだろ」「あっ，ミナだミナだ」と差別をしてしまうのが現実なのだと思ったからです。かかってしまうともう二度と治ることはないのは本当に辛いことだなと感じました。

・水俣病は周りからわかってもらえない症状を抱えながら差別などされてしまう苦しい病気だということがわかりました。差別するのは絶対にいけないことだとわかっているのにしてしまうのは本当にひどいことだなと思いました。

・今回の勉強で習ったことを生かしていくことで差別や偏見などをする人がいなくなってほしいです。この水俣病のことは忘れずにいれば同じ過ちを繰り返さないと思いました。

・水俣病は被害者の健康を奪っただけでなく，地域や家族の絆さえも壊してしまうことがわかりました。差別やいじめなどで今でも苦しめられている患者もいます。わたしはそのことについてどうかと思います。なぜなら，かかりたくてかかったわけではないのに苦しめられているなんて被害者のひとがかわいそうだと感じたからです。私は，二度とこのようなことが起こらないように差別や偏見をせずこれから過ごしていきたいと思いました。

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立桃山小学校	担当（職・氏名）	教諭　　曽田　健太
学習テーマ	地域に　そして人に優しく		
活動のねらい	地域の自然環境について，環境問題を見付けたり詳しく調べたりする活動を通して，自分ができる環境を救う取り組みについて考え，環境を保全していこうという態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・　新潟水俣病について学校で調べたり「環境と人間のふれあい館」を訪問したりして，病気の原因や被害，歴史について学ぶ。

・　新潟水俣病の被害者の話を通して，病気に対する差別について知ったり考えたりして，差別を許さない，差別をなくしていこうという心情を育む。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・　四大公害病について発生個所や原因について知る。

・　新潟で起きた新潟水俣病について調べたり，問題をもったりする。

・　「環境と人間のふれあい館」「ビュー福島潟」で新潟水俣病や地域の環境問題について話を聞いたり，館内の資料を調査したりする。

・　新潟水俣病の被害者の話を読み，病気に対する差別をなくしていこうという心情を高める。（道徳）

・　二度と公害を起こさないように新潟市や地域が行っている活動について調べる。

・　環境保全のために自分たちがこれからできることについて考え，まとめ，発信する。

○　活動詳細

実施期間	５月～７月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
公害について知る	１	・　「公害」という言葉の意味を知り，日本で過去に起きた四大公害病の発生個所や原因についてインターネットや冊子資料を活用し調べ，その概要を知る。 資料…冊子「はじめての新潟水俣病」
新潟水俣病について知り，興味をもつ	２	・　全国で起きた四大公害病の一つの「新潟水俣病」について，映像資料や冊子資料を活用しながら概要を知るとともに，疑問に思ったことやこれから深めていきたいことを考える。 資料…冊子「はじめての新潟水俣病」 冊子「新潟水俣病２０の疑問」 映像資料「悲劇を繰り返さないために」

環境と水のふれあい館見学	2	・ 「環境と人間のふれあい館」「ビュー福島潟」で新潟水俣病のあらましや被害，地域に残る環境問題について話を聞いたり，館内の資料を調査したりする。 見学先…環境と人間のふれあい館，ビュー福島潟
差別をなくすためについて考える（道徳）	1	・ 新潟水俣病の被害者の話を読み，病気に対する差別をなくしていこうという心情を高める。（道徳）
自分の地域のこれからを考える	1	・ 現在も「公害」は様々な形で市民の生活を脅かしており，それに対して自分たちの地域や新潟市はどのような対応をしているのかを調べる。また，この先自分たちは公害を起こさないためにどんな行動をすることができるのか考える。
世界の環境問題について知る	3	・ 公害から環境問題に視野を広げ，今地球上で起きている環境問題についてインターネットを使い調べ，タブレットに記録していく。
自分の考えをまとめ，伝える	3	・ 世界の環境問題を解決するために自分たちができることについて一人ひとりレポートを作成し，伝える活動を行う。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

新潟県立環境と人間のふれあい館

ビュー福島潟

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

〈成果〉

・ 環境と人間のふれあい館やビュー福島潟で新潟水俣病に関する実際の資料や，新潟市の環境問題についての資料を見たり聞いたりすることで，学校で学んだことを生かした発展的な学習を行うことができた。
・ 環境問題や新潟水俣病に関する冊子資料や DVD 資料を効果的に活用することで，５年生にとって難しい内容と思われるものでも，抵抗なく学習することができた。
・ 新潟水俣病の語り部さんの話を聞くことで，児童自身が被害者の立場に立ち，差別や偏見について考えることで，新潟水俣病についてより深く考えることができた。

〈課題〉

・ ５学年だけで学ぶのではなく，他の学年にも環境学習を取り入れ，段階的に学習していくことで，環境問題が児童にとってより身近で解決しなければならない問題だと意識させることができると感じた。

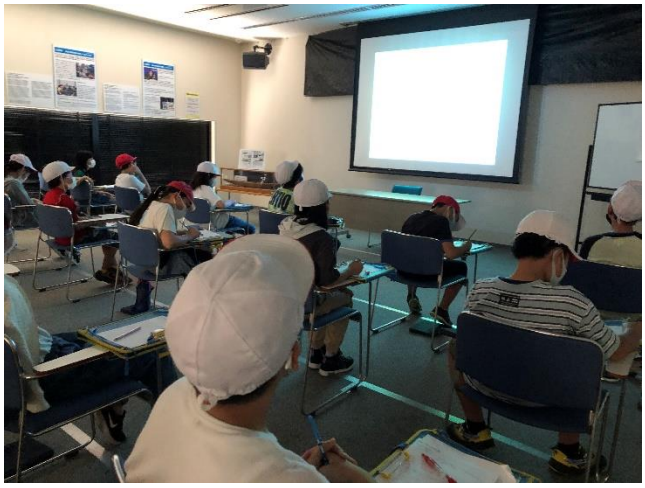
環境と人間のふれあい館













ビュー福島潟













■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立桃山小学校	**5年2組（36人）**	**7月5日**	**道徳**	**教諭　　曽田　健太**

・主題名　平等な世界を目指して 4-(3) 差別や偏見のない社会の実現
資料名　「ある水俣病患者の訴え」

・ねらい
差別や偏見について、水俣病患者の苦しみについて話し合うことを通して、差別や偏見をせずに、公正・公平な態度で接しようとする意欲をもつことができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5分	○導入 Ｔ１　：水俣病について知っていることはありますか。	Ｃ１　：阿賀野川で起こった公害問題 Ｃ２　：メチル水銀が原因 Ｃ３　：差別や偏見が生まれた。	
5分	○学習課題の設定 Ｔ２　：差別や偏見のない社会をつくるにはどうしたらよいのでしょうか。		
	課題　差別や偏見のない社会をつくるにはどうしたらよいか。		
15分	○資料を読んで、水俣病についてについて考える。 Ｔ３　：わたしを苦しめていたものはどんなものがありましたか。	Ｃ４　：水俣病の症状（しびれ・足の痛み等） Ｃ５　：裁判で認定されないつらさ Ｃ６　：周りからの偏見・陰口・誤解 Ｃ７　：家族とうまくいかない Ｃ８　：働けなくて家計が苦しい	p１２２～１２４の文章を参考 p125のワークシートを参考 p６２補助資料を参考
10分	○差別をしてしまう心について考えを深める。 Ｔ４　：では、どうして差別や偏見が起こるのでしょうか。 	Ｃ９　：仲間外れを作って自分を守るため。 Ｃ１０：自分との違いを認めない気持ちがある。 Ｃ１１：自分はそうなりたくないという考え。 Ｃ１２：水俣病について詳しく知らないから。	

5分	○まとめる Ｔ５　：差別や偏見をしないために大切なことはなんですか。	Ｃ１３：相手のことを理解する気持ちをもつ。 Ｃ１４：相手の立場に立って考える。 Ｃ１５：少数意見も大切にする。	
	まとめ　相手の立場に立ち、その人の個性や考え方を大切にする。		
5分	○振り返りをする Ｔ６　：今日の振り返りをしましょう。	Ｃ１６：差別や偏見は自己中心的な考えが原因で起こると思った。相手の立場に立ち、相手を理解し、認める心をもっていきたい。	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・相手のことを決めつけないことが大切だと分かった。そのためには冷静になって正しい判断を行わなければならない。

・今までは水俣病のことは詳しく知らなかったけど、今回の勉強で水俣病が苦しめたものについてよくわかった。これからは自分の身の回りでも差別を許さずに、差別をなくしていきたい。そして、水俣病について多くの人に正しい知識を知ってもらいたい。

・僕は差別などをしないために、正しいかどうかもわからない情報で発言や思い込み、決めつけをしないことが大切だと思いました。

・水俣病はすごく苦しいけど、周りの人からの差別やいじめもすごく苦しいから、そういうことで苦しんでしまった人がとてもかわいそうだと思いました。これからは差別がない社会にしていかなければいけないと思います。

令和４年度「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立日和山小学校	担当(職・氏名)	教諭・斎藤　隆
学習テーマ	プログラミングでＳＤＧｓの解決を目指そう。 （４．５．６学年：理科・道徳）		
活動のねらい	潟、川、海のプラごみや自然を調べる学習を通して、自然環境と生物との関わりについて理解を深め、環境を保全していこうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

「水俣病教師用指導資料集」「みなまた探索日記自作ＤＶＤ」を用いて、新潟水俣病が、自然を壊し、環境を蝕み、生活を変えたことを理解させ、人々が安心して暮らしていくために、自然に対する畏敬の念を育みし、社会全体で環境を守ろうとする実践意欲を高める。

○　活動概要

①プラごみや生き物を調べる。（４年生…福島潟、５年生…早出川、６年生…日和山海岸）
②メダカや在来種の魚を育て、生き物にとってすみやすい環境とは何か調べる。（５年生）
③環境と人間のふれあい館に行き、水俣病について学び、水の大切さ、環境の大切さに気付く。（４年生）
④煮干しの解剖を行い、胃の中のプランクトンやマイクロプラスチックを調べる。（６年生）
⑤環境を守る方法について、プログラミングを通して解決する方法を考えて実験したりまとめたりする。（４～６年生）
⑥追求したことをまとめる。（４～６年生）

○　活動詳細

実施期間	令和４年６月～令和５年３月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
プラごみを調べる。	2	４年生…福島潟の生き物・プラごみを調べる。 ５年生…早出川のプラごみを調べる。 ６年生…日和山海岸のプラごみとマイクロプラスチックを拾う。
メダカや在来種の魚を育てる。	2	５年生…メダカは班で一つの水槽、在来種の魚は、みんなで一つの水槽で観察する。
水俣病について学ぶ。	2	４年生…環境と人間のふれあい館に行き、水の大切さ、環境の大切さに気付かせる。
煮干しの解剖を行う。	1	６年生…胃の中のプランクトンやマイクロプラスチックを調べる。
プログラミングでまとめたり実験したりする。	5	４～６年生…環境を守る方法について、解決する方法を考えて行う。
追求したことをまとめ、発表する。	2	４～６年生…新聞、参観日、児童会まつりなどで発表する。

○　協力団体・協力者等

ＳＤＧｓを新潟に広める会

○　プラごみを調べる。

６年生は、日和山海岸でプラごみとマイクロプラスチックについて調べた。砂をザルに入れ、ゆすって砂を落とし、ザルに残ったものを水の入ったバケツに入れると、たくさんのマイクロプラスチックが見つかった。また、煮干しの解剖をして胃の中を調べると、マイクロプラスチックのようなものも見つかった。５年生は、早出川でプラごみがあるか調べ、上流には無かったプラごみが中流の河原にはたくさん見つかった。４年生は、福島潟でプラごみがあるか調べた。気にとめなければ見つからないような場所にプラごみが見つかった。

○　プログラミングでプラごみをなくす工夫

４～６年生は、「環境学習をしたことを Scratch3 で、プラごみを減らすことを呼びかけるようにするには、どのようにすればよいか」という課題に取り組んだ。限られた時間で行うために、未完成のプログラムに「メッセージを使って写真を入れる」「写真の説明を音声ＡＩが話すようにする」ということを指導し、残りの時間はさらに自分でアレンジするようにした。micro:bit や micromaqueen というプログラミングロボットカーでプラごみを回収する取組では、衝突回避センサーを使ったプログラミングを行った。「衝突回避をしながら、プラごみを回収するとき、向きの変え方によってごみの集め方は変わるか。」について課題として取り組んだ。１分間以内に４つのプラごみを回収できるか実際に試してみると、そのグループによってとれた数は違い、ごみの集め方は変わらないということが分かった。

○　子どもたちの声

・メダカ・タナゴ・ヤマトヌマエビの飼育

「魚などが住み易い環境について学びました。メダカは、班で一つの水槽で飼ったので、とても身近なものとして感じることができました。」

・プラごみを調べ、プログラミングでプラごみをなくす工夫

「プラごみのプログラミングをして、改めてすごくゴミがあった事がわかりました。本当に魚や他の生き物にも影響があるので本当によくないなと思いました。今度海などでゴミを拾うイベント（活動）があったら参加してごみを拾ってみたいです。」

「はじめは、車についている目のようなものが何かと思っていたら、距離を測るセンサーだと分かりました。そんなに取ることはできないと思っていたのにプラごみを取ることができてすごいと思いました。」

・水俣病

「一度環境がこわれると大変だと思いました。正しい知識を学び、環境を守りたいです。」

○　成果と課題

成果①　水俣病について正しい知識をもつこと、差別を見抜き差別を許さないこと、自然環境を大事にしていかなければならないことの大切さについて学ぶことができた。

成果②　プラごみが、早出川、福島潟、日和山海岸にあることが分かった。プログラミングで環境を守ることができる可能性を感じさせることができた。。

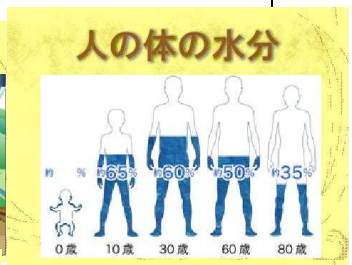
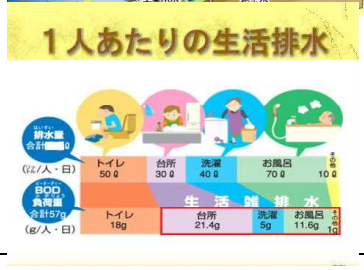
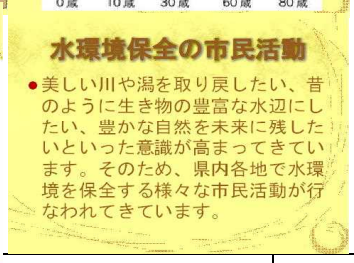
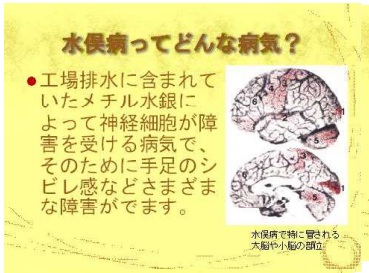
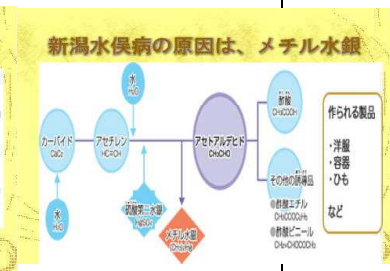
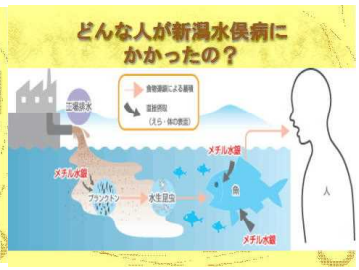
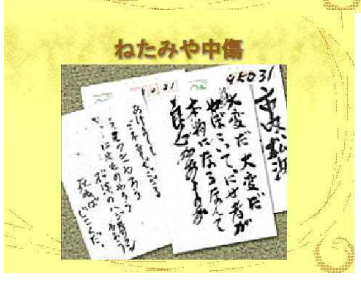
課題　　環境を守ることの大切さと、差別をしてはいけないことは学んだが、身近なところから自分のできることをしていくという実践的な部分がまだ不足している。

令和４年度「地域の特色を活かした環境学習支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立日和山小学校	４年生（７４人）	６月３０日	道徳	教諭　斎藤　隆

主題名　**環境学習から水俣病について学ぶ　３－（２）自然愛**

ねらい　**新潟水俣病が，自然を壊し，環境を蝕み，生活を変えたことを理解させ，人々が安心して暮らしていくために，自然に対する畏敬の念を育み，社会全体で環境を守ろうとする実践意欲を高める。**

配分（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習内容等）	資料
１０	水俣病について，これからどんな努力をしていくことが必要でしょうか。 ○　環境を守る活動について考えさせる。      ●　赤ちゃんの水分は８８％もある。 ●　水の汚れの原因は人がつくっている。	環境と人間のふれあい館のＨＰを基にした自作ﾌﾟﾚｾﾞﾝ
２０	○　新潟水俣病について説明する。     ●　最初は水俣病の原因が分からなかった。 ●　「うつる病気」「タタリ」だと誤解され，差別や偏見があった。	「水俣病教師用指導資料集」 「みなまた探索日記自作ＤＶＤ」
１５	○　水俣病について，これからどんな努力をしていくことが必要か考えさせる。	●　自然を守る。 ●　差別をしない。 ●　「もやいなおし」をする。	

授業後の子どもたちの考え

○　水俣病について学んでの振り返り

・水俣病で悩んでいる患者の方々が、差別や偏見で苦しんでいるということを学びました。水俣病の人を差別している人は、どういう気持ちでやっているのか、不思議でたまりません。本当に許せません。水俣病になってしまった人は、心も体も傷ついていると思います。私たちにできることを、これからも考えていきたいと思います。

・水俣病のことがくわしくわかりました。生まれた頃から苦しんでいる人もいて、差別されて心が傷ついている人もたくさんいることがわかりました。水俣病にかかってしまった人が苦しいのに自分よりもひどく苦しんでいる人のために頑張っていたので、私も負けずに頑張りたいと思いました。

・ぼくは最初メチル水銀を流すのを、なぜ止めなかったのかわからなかったので、政治が悪いと思っていました。ですが、今日学んで政治は証拠がなくメチル水銀の特定ができなかったことがわかりました。また工場も毒になる水を流そうとしていたわけでもありませんでした。周りの人は恐れていたということもわかりました。それでも、差別偏見はけっしてしてはいけないと思いました。そして、環境を守ることが大事だと思いました。

・ぼくは水俣病という病気があるなんて知らなかったです。水俣病にかかった人は、相当つらかったと思いました。ぼくは、お医者さんになって水俣病になった人を治せるような、そんな未来にしていきたいです。

・新潟水俣病は、すごくつらいのに、信じてもらえなかったり、ひどい差別を受け、大変だったと思います。本当に自分が水俣病にかかったら、どういう思いをするのか大変さを知って、自分が嫌だったらしないと思います。自分がされて嫌なことは、人にはしてはいけないということが大事だと思います。

・ぼくは水俣病で、苦しんでる人が未だにいるということがわかりました。魚が悪いわけではありません。環境を守ることが大事だと思いました。水俣病にかかった人は、本当につらかったと思います。差別は、どんなことがあってもしてはいけないと思いました。

・私は、差別や偏見は絶対にしてはいけないことなんだなと思いました。水俣病にかかった人は、「死んだら地獄」だとかひどいことを言われたと初めて知りました。そういうことは絶対に私はしません。

・自然の環境を守らないといけないし、あと絶対に差別をしてはいけないということです。

・水俣市で起きた水俣病が、新潟でも起きました。水俣病とわからないからといって、差別や、偏見はしてはいけないと思います。ＳＤＧｓを学んでいて、マイクロプラスチックが水俣病と同じように、食物連鎖により体に影響があるのではないかという心配があります。自然を守り、私たちができることをしていくことが大切です。

○　写真資料

プラごみを調べる

６年生　日和山海岸でプラごみ・マイクロプラスチック回収する。



SDGs を新潟に広める会の方の指導



浜辺の砂をゆすって落とす



水に浮かべたものを調べる



見つかったマイクロプラスチック



回収したプラごみ



煮干しの胃の中を調べる



胃の中のプラスチック？

４年生　福島潟で生き物やプラごみを調べ、環境と人間のふれあい館で新潟水俣病について学ぶ。



福島潟で見つかったプラごみ

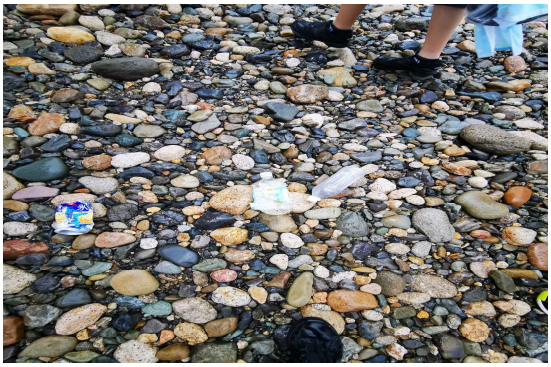


食物連鎖について学ぶ

５年生　早出川ダムで環境にやさしいエネルギーについて学び、川原のプラごみを調べる。

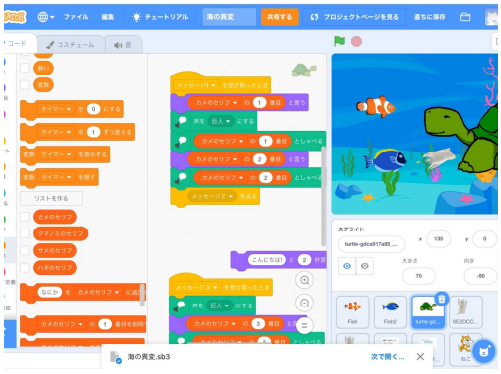


水力発電の仕組みを学ぶ

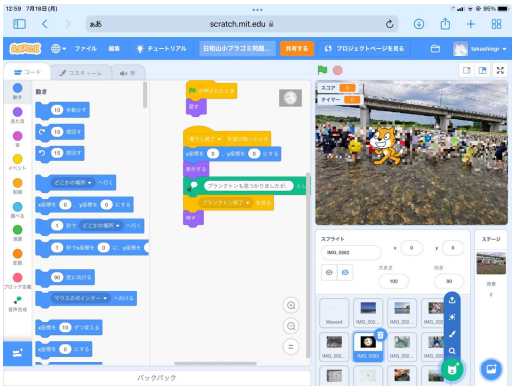


川原で見つかったプラごみ

プログラミングで海の環境を守ることを呼びかける。



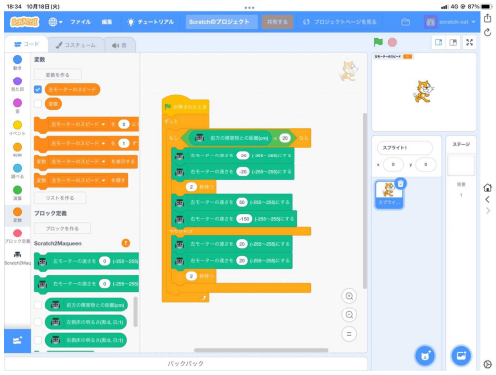
Scratch3海の生き物たちの心配



プラごみを捨てないことを呼びかけ

プログラミングロボットカーの衝突回避機能を使ってプラごみを回収する。





プログラミングロボットカーを矢印キーで操作できるようにして、プラごみ回収





■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	女池小学校	担当(職・氏名)	教諭・江端　卓
学習テーマ	・自然環境を守るために、自分ができることは何だろう ・差別や偏見をなくすために、自分ができることは何だろう		
活動のねらい	・新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組みを正しく理解することを通して、自然環境保全への意欲を高める。 ・新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知ることを通して、偏見や差別をなくすためにできることを考え、行動できるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

阿賀野川流域で起きたことから、子どもたち自身にとっても身近な問題として捉えさせた。

５学年社会科「環境をともに守る」では、四大公害病の新潟水俣病を軸にして他の公害病と比較しながら学習した。

また、次の二点を目的に、「環境と人間のふれあい館」の見学を行った。

① 新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組みを正しく理解するだけでなく、公害をなくす取組を自分たちの生活と重ねて考えさせるようにする。

② 新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知り、偏見や差別をなくすための自身の行動に結び付けられるようにする。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

（１）道徳「ある新潟水俣病患者の訴え」

（２）社会科「環境をともに守る」　新潟水俣病に関するパンフレットや冊子（ＰＤＦ）の活用

（３）「環境と人間のふれあい館」の見学

（４）自分ができることや社会形成に向けて大切なことを考える。

○　活動詳細

実施期間	４学年：６月　５学年：９月～１０月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
４学年　総合 環境と人間のふれあい館 見学と水質調査	３	鳥屋野潟と福島潟の水質調査を行い、自然環境保全への意識を高める。
５学年　道徳 新潟水俣病について知る	１	「ある新潟水俣病患者の訴え」（新潟県同和教育協議会小学校高学年用副読本「生きるⅢ」所収）を通して、被害の実態や被害者の思いや生き方に触れることができるようにする。
５学年　社会 四大公害病について知る	４	５学年社会「環境をともに守る」で、新潟水俣病が四大公害病の一つであること、自然環境を守るために様々な取組が行われてきていることを理解できるようにする。

５学年　総合 環境と人間のふれあい館見学	１	館内の展示について説明を聴いたり、語り部（立川さん）のＤＶＤを視聴したりして、新潟水俣病の原因が水質汚染であることや，今でも被害に苦しむ方の思いに触れ、新潟水俣病についての理解を深められるようにする。
５学年　総合 ビュー福島潟見学	１	福島潟について、レンジャーの方から説明していただいたり展示資料を見たりして、福島潟は、豊かな自然が残り、自然が大切に守られていることを理解できるようにする。
５学年　社会 学習のまとめ	３	４学年の社会科「ごみのゆくえ」と総合的な学習の時間の学習も想起しながら、これまでの学習をまとめ、自分ができることを考え、実践できるようにする。

○　協力団体・協力者等

・環境と人間のふれあい館
・新潟水俣病語り部　立川小三郎　様（DVD）
・ビュー福島潟
・新潟市環境政策課（４学年時）

○　成果と課題

【成果】

・社会科の公害、道徳の差別や人権、総合的な学習の時間、前学年の学習を、横断的に関連させて学習させることができた。
・二度の「環境と人間のふれあい館」見学により，自然環境と生活のつながりを実感させながら，理解を深めさせることができた（前年の様子を、職員の方が覚えていてくださっていて、発展的な説明をしていただけた）。
・新潟水俣病への関心が高まり、新聞記事（ＮＩＥを並行して行っていたことによる）やテレビの報道に触れる機会が増えた。
・解決しようとする人々の努力や国，県，市の対応に意識を向け，考えることができた。
・自然環境を守っていく主体が「自分」であることを意識させ、自発的な行動の変容を促すことができた。

【課題】

・新型コロナウィルス感染症予防と日程的な関係で、語り部さんの話を直接聞くことができずに、ＤＶＤの視聴のみになった。生の語りを聞くことで、より新潟水俣病で苦しむ人々の思いや願いに寄り添うことができたかもしれない。
・「水環境」をテーマにして学習を計画的に行うことで、新潟水俣病や新潟市内のある潟や河川について、興味関心をさらに高めたり、地域の自然環境保全の取組に参加したりすることができたかもしれない。小学校６年間で繰り返し学べるような計画づくりにつなげられるとよかった。

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立女池小学校	**5年1組（29人）**	**10月3日**	**社会**	**教諭・江端　卓**

・単元名　「自然とともに生きる」　小単元「環境をともに守る」

・ねらい　国土の環境と国民生活との関連について、公害防止の取組について多角的に考えたり、自然環境保全の課題を把握したりすることを通して、解決に向けて思いをもって自分ができることを考えることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	**新潟水俣病とは何ですか。** ○阿賀野川の位置を地図で確認させ、写真を見て新潟水俣病を想起させる。 **なぜ，ここで新潟水俣病が起こったのでしょうか。** ○「生きるⅢ」や「環境と人間のふれあい館」での学習を想起させる。 （特に，人々と阿賀野川との関わりについて）	・日本の四大公害病の一つ。 ・阿賀野川で起こった，悲しい出来事。 ・今でも、被害や差別に苦しんでいる人がいる。 ・この地域の人々は阿賀野川から，多くの恵みを受けて生活していた。 （舟運，漁業，川砂利採取など） ・阿賀野川上流にあった工場が流した排水の中に入っていた有機水銀が，川を汚染した。 ・有機水銀に汚染された阿賀野川の川魚をたくさん食べてしまった。	・p44-49 ・p51 の資料1 ・生きるⅢ ・地図帳
23	**現在の阿賀野川はどうなっているのでしょう。** ○「環境と人間のふれあい館」や「ビュー福島潟」での見学を想起させる。	・今も汚染されたままなのではないか。 ・北九州市のように，市民と行政，工場が協力して解決したのではないか。 ・調べてみよう。 工場 排水をきれいにする施設を作って２４時間，３６５日休みことなく処理し続けている。 阿賀町 法律の２倍の厳しい基準で排水をきれいにすると，工場と約束を交わした。 新潟県 詳しく調査をして，安全宣言を出した。 毎年，川魚などの水銀検査をしている。	・p51 の資料2と資料3 ・県HPからダウンロードした冊子

		・「市民」についてはまだ分かっていないね。市民はどう関わったのかな。	
8	**市民は阿賀野川とどう関わってきたのでしょう。** ○教科書の事例（北九州市）やこれまでの調べ活動をもとに考えさせる。	・新潟県や新潟市が開いた、語り合う場に参加して、新潟水俣病について理解を深めている。 ・新潟市企画した住民参加型のツアーやイベントに参加して、地域のつながりを大切にしている。	・県HPからダウンロードした冊子
9	これまでの学習を振り返り、これから、わたしたちは何ができるでしょう。 ○これまでの一連の学習をまとめ、グループで可能な取組を話し合う。 ○「環境と人間のふれあい館」に送るミニレターに自分の思いや考えを書くことを伝える。	（下記「授業後の子どもたちの考え」参照）	

・授業後の子どもたちの考え（ミニレターに書かれていたもの　抜粋）

○　４年生のときにも（環境と人間のふれあい館を）訪れたことがありました。５年生になって、もっと学習を深めることができました。二度とくり返したくない歴史です。

○　環境と人間のふれあい館では、水俣病についてたくさんのことが分かりました。私は、水俣病かんじゃの薬や治療法がまだ見つかっていないことがびっくりしました。水俣病の正しい理解が必要だと思いました。

○　立川小三郎さんの話を聞いて「グッ」ときました。外見では分からない水俣病もあると知って、やっぱり、外見だけで人を決めてはいけないと改めて思いました。

○　もっと水俣病のことを知り、より多くの人に伝えていきたいと、私は考えています。より多くの人に水俣病のことを知ってほしいです。

○　まだ水俣病で苦しんでいる人がいるので、水俣病の話を受けつぐことが大切だと思います。

○　水俣病とは大変な公害病であることが分かりました。ひがい者は、家族のために水俣病であることをかくしていたことが、「辛いなあ」「苦しいだろうなあ」と思いました。なので、絶対に差別をしてはいけないということも、改めて分かりました。

○　阿賀野川の水をきれいにしていきたいと思いました。

○　自分ができることを進んで取り組んでいきたいと思いました。例えば、ごみの「３Ｒ」や節電です。

環境と人間のふれあい館での活動



ＤＶＤ語り部（立川小三郎さん）の視聴



昭和電工鹿瀬工場と阿賀野川の位置確認

子どもたちの実践



給食のごみの減量化「少なく、小さく」



節電「先生、ここ消していいですか」



「環境クイズ」を委員会で作成し全校に配信

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立桜が丘小学校	担当（職・氏名）	教諭・髙橋 越子
学習テーマ	身近な地域の今と昔を比較して，私たちにもできる環境を守る取組を考えよう。		
活動のねらい	新潟水俣病問題の歴史を学ぶことを通して，持続可能な地域社会の実現を目指そうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・阿賀野川の環境保全に携わる方の話を聞き，新潟水俣病について学ぶ。

・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，正しい知識をもとに学習を深める。また，様々な人々がこの問題の解決にかかわっていることを捉えさせる。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

① 阿賀野川流域が新潟水俣病の発生地域であることを知る。

② 新潟水俣病の発生と原因について学ぶ。（ゲストティーチャー）

③ 患者の身体的・精神的な苦しみを知るとともに教訓を活かした取組が行われていることを理解する。（環境と人間のふれあい館）

④ 自分たちにできる環境を守る取組を考える。

○　活動詳細

実施期間	１０月　～　１１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病について知る	３	・教科書や資料を活用し，新潟水俣病について理解する。
出前授業	２	・あがのがわ環境学舎の方から，新潟水俣病の被害や歴史について学ぶ。
校外学習	５	・環境と人間のふれあい館を見学し，新潟水俣病に関する展示資料を見たり，施設の方からの話を聞いたりして理解を深める。 ・語り部の方からの講演を聞き，被害者の生き方に共感する。 ・ビュー福島潟を散策し，水辺の生き物や阿賀野川のくらしについて学ぶ。

道徳授業	1	・生きるⅢ「ある新潟水俣病患者の訴え」を活用し，病気に対する差別や偏見をなくそうとする心情を育てる。
学習のまとめ(新聞作り)	4	・これまでの学習を振り返り，新潟水俣病に関する内容を整理したり，これから自分たちにできることを考えたりして新聞にまとめる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・あがのがわ環境学舎

・環境と人間のふれあい館

・ビュー福島潟　レンジャー

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

・環境と人間のふれあい館での学習の前後に予習や復習を行うことで，新潟水俣病で苦しむ人々の思いや，より良い環境を創造していくことへの大切さについて正しく学習することができた。

・あがのがわ環境学舎の方から事前に授業をしていただくことで，自分たちの住んでいる地域にある鳥屋野潟と阿賀野川の関わりについて知ることができ，新潟水俣病を自分事として捉えることができた。

・環境と人間のふれあい館で語り部の方からの話を映像で視聴し，実際の阿賀野川流域に暮らす方々の生活や新潟水俣病への偏見・差別に苦しんだ経験などを知ることができた。

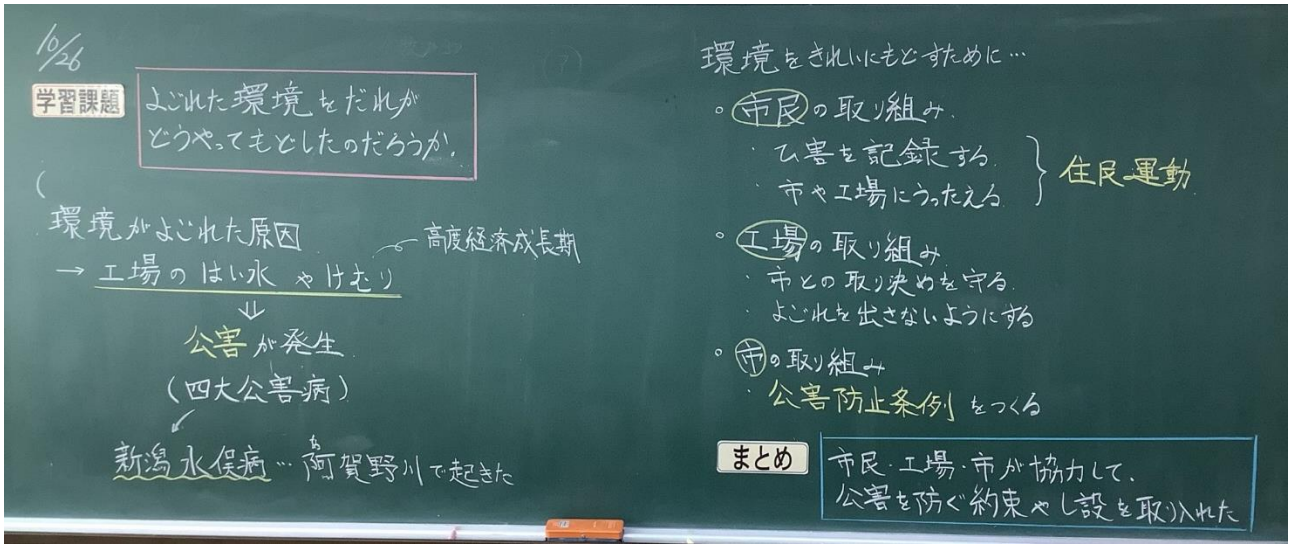
・ビュー福島潟での展示を見て，様々な生物と共生することの必要性に気づくことができた。

・福島潟の周りをレンジャーの方に案内してもらい，固有種を外来種から守り，それを維持することについて話を聞くことができ，環境保護への意欲を高めることができた。

課題

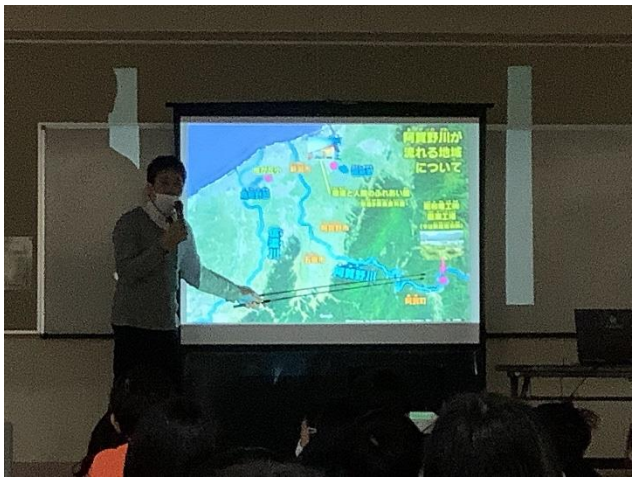
・環境と人間のふれあい館・ビュー福島潟での学習を通して身の周りの環境をより良くしていこうという気持ちを高めることができたが，それを保護者や校外等に発信する機会をもつことが出来なかった。授業で学んだことだけではなく，校外学習で学んだこともっと発信していきたい。

１．新潟水俣病について知る【社会科「環境をともに守る」】



２．出前授業【あがのがわ環境学舎】





３．校外学習

【環境と人間のふれあい館】



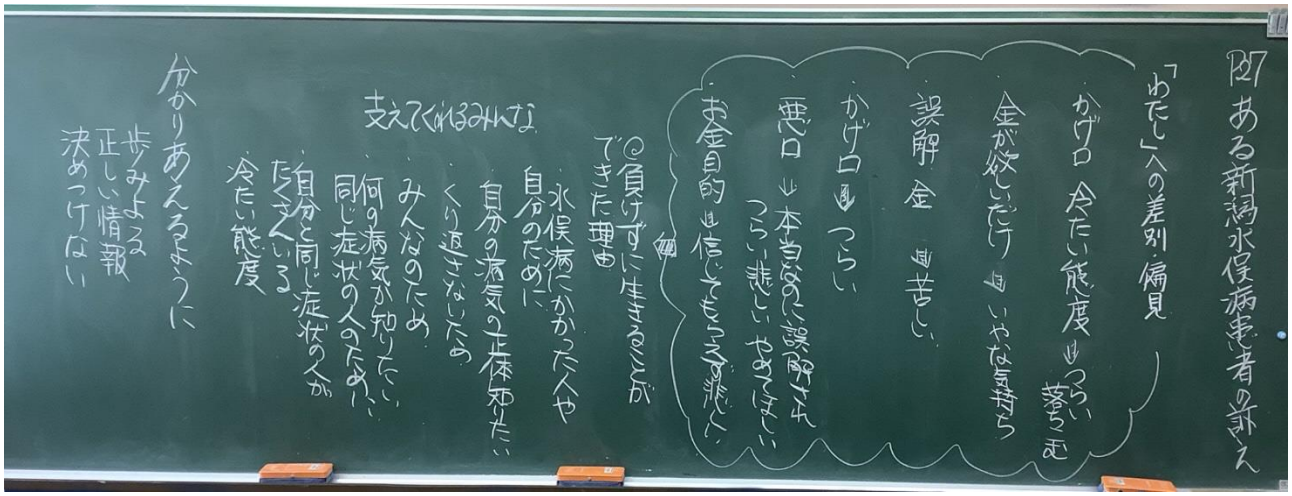


【ビュー福島潟】



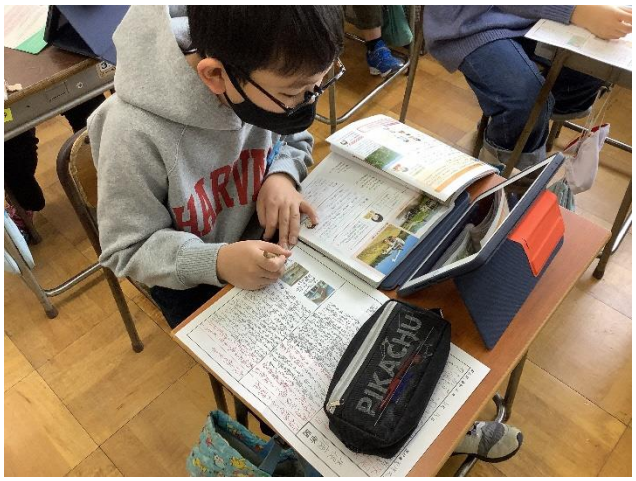


４．道徳授業【生きるⅢ「ある新潟水俣病患者の訴え」】



５．学習のまとめ【新聞作り】





■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立桜が丘小学校	**5年3組（29人）**	**11月4日**	**道徳**	**教諭・髙橋　越子**

・主題名　病気に対する差別や偏見に立ち向かう　～ある新潟水俣病患者の訴え～

・ねらい

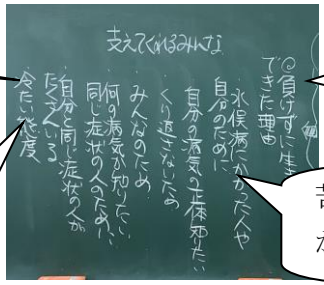
社会科や校外学習で学んだことを振り返ることや資料を通して，新潟水俣病により体も心も，そして家庭さえも壊された患者が受けた差別や偏見に憤るとともに，病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。さらに病気に対する差別を許さず，ともに立ち上がろうとする気持ちを高める。

<table>
<tr><th>配時（分）</th><th>教師の働き掛け</th><th>子どもの反応（学習活動等）</th><th>資料</th></tr>
<tr><td>5分</td><td colspan="3">これまで学んできた新潟水俣病のことについて振り返ります。どんな病気でしたか。</td></tr>
<tr><td></td><td>○社会科や校外学習で学んだ資料を振り返り確認する。</td><td>●汚染された魚をたくさん食べてなってしまった病気。
●公害病である。
●差別があった。</td><td>・校外学習のしおり</td></tr>
<tr><td>10分</td><td colspan="3">「わたし」が受けた差別や偏見は，どのようなものでしたか。また，そのときの「わたし」の気持ちも考えましょう。</td></tr>
<tr><td></td><td>○資料から「わたし」が受けた差別や偏見を考え発表させる。</td><td>●個人で考えさせてからグループで交流。その後にグループの考えとして発表。
●お金目当て　●家族への中傷
●病気に対する不理解</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">信じてもらえなくてすごく悲しいし，差別をしないでと思っていたと思う。

陰口や冷たい態度に「わたし」はつらくて悲しい気持ちになったと思う。
お金目当てだと誤解されて苦しかったと思う。
病気は、本当なのに分かってもらえなく悲しいしつらかったと思う。</td></tr>
<tr><td>10分</td><td colspan="3">「わたし」が病気の苦しみや差別，偏見に負けず，生きていくことができた理由を考えましょう。</td></tr>
<tr><td></td><td>○資料から「わたし」が新潟水</td><td>●個人で考えさせてからグループで交流。その</td><td></td></tr>
</table>

	俣病訴訟を闘い続けることができた理由を考え発表させる。	**後にグループの考えとして発表。** **●支えてくれる人などみんなのために。** **●病気の正体を知りたい。** **●一緒に頑張っているひとがいる。**

支えて応援してくれる人たちもいるから。



自分の病気の正体が知りたい。真実が知りたいから。

冷たい態度をとった人たちに態度を改めてほしいから。

苦しんでいるみんなのためにもがんばろうと思ったから。

8分	**あなたの周りに「わたし」のように病気や差別で苦しんでいる人がいたら，あなたはどう接するべきだと思いますか。**	
	○病気や差別で苦しんでいる人にどう接するべきか考える。	**●これまでの話し合いをもとに自分でどうすればよいか考える。** **●話を聞く。●正しい情報を得るようにする。**

～子どもたちのワークシートより～

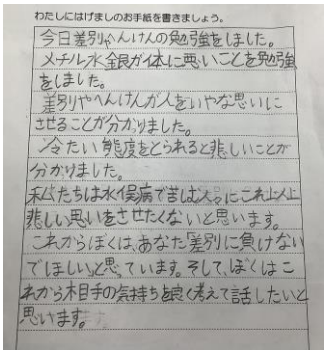
・助ける。差別する人を注意する。　・決めつけない。流されない。

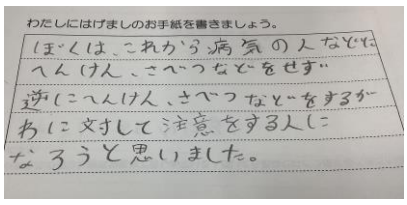
・優しく声をかける。　・励ます。

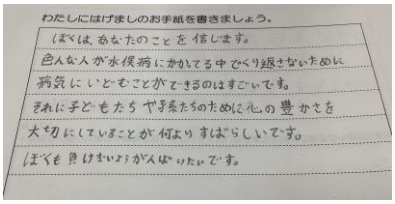
・分かり合えるように話を聞き、みんなと同じように接する。

12分	**「わたし」への励ましのお便りを書きましょう。**	
	●授業のまとめとして「わたし」への励ましの手紙を書かせる。	**●一緒に行動していこう。** **●応援するので頑張ってほしい。**

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）


わたしにはげましのお手紙を書きましょう。
今日差別や人けんの勉強をしました。
メチル水銀が体に悪いことを勉強をしました。
差別やへんけん人が人をいやな思いにさせることが分かりました。
冷たい態度をとられると悲しいことが分かりました。
私たちは水俣病ではないにこれ以上悲しい思いをさせたくないと思います。
これからぼくは、あなた差別に負けないでほしいと思っています。そして、ぼくはこれから相手の気持ちをよく考えて話したいと思います。


わたしにはげましのお手紙を書きましょう。
ぼくは、これから病気の人などにへんけん、さべつなどをせず
逆にへんけん、さべつなどをするかもに対して注意をする人になろうと思いました。


わたしにはげましのお手紙を書きましょう。
ぼくは、あなたのことを信じます。
色んな人が水俣病にかかってる中でくり返さないために
病気にいどむことができるのはすごいです。
それに子どもたちや家族たちのために心の豊かさを
大切にしていることが何よりすばらしいです。
ぼくも負けないようがんばりたいです。

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

<table>
<tr><td>学校名</td><td>新潟市立大淵小学校</td><td>担当(職・氏名)</td><td>教諭・吉田和輝</td></tr>
<tr><td>学習テーマ</td><td colspan="3">「環境と人間のふれあい館」で新潟水俣病や水環境を知り，自分たちの住んでいる自然環境を調べよう。</td></tr>
<tr><td>活動のねらい</td><td colspan="3">時代が進むにつれて社会生活が変化するとともに環境について理解を深め，環境を保全していこうとする態度を育む。</td></tr>
<tr><td colspan="4">○　新潟水俣病とのかかわり
「環境と人間のふれあい館」を訪問し，新潟水俣病のことを知り，水環境の大切さを捉える。
「環境と人間のふれあい館」を再訪問し，水俣病の語り部の方から話を聞いて学習を深める。また，様々な人々がこの問題の解決にかかわっていることを捉える。</td></tr>
<tr><td colspan="4">○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
①「環境と人間のふれあい館」で新潟水俣病や水環境の大切さについての映像や資料・館の職員の方から話を聞く。
②学校や資料館で見たことや聞いたことをもとに水俣病や水環境について各種資料を用いて調べる。
③「環境と人間のふれあい館」を再度訪問し，語り部の方から具体的な話を聞いたり，講義を受けたりして学習を深める。
④学校で私たちの未来のために，環境の視点から「できること」は何かを考える。</td></tr>
<tr><td colspan="4">○　活動詳細</td></tr>
<tr><td>実施期間</td><td colspan="3">令和４年１１月～令和５年４月</td></tr>
<tr><td>主な学習内容・活動内容</td><td>時間</td><td colspan="2">指導・支援の内容</td></tr>
<tr><td>校外学習「環境と人間のふれあい館」</td><td>３時間</td><td colspan="2">「環境と人間のふれあい館」で新潟水俣病や水環境の大切さについての映像や資料・館の職員の方から話を聞く</td></tr>
<tr><td>校外学習の振り返り・調べ学習</td><td>２時間</td><td colspan="2">学校や資料館で見たことや聞いたことをもとに水俣病や水環境について各種資料を用いて調べる。</td></tr>
<tr><td>校外学習「環境と人間のふれあい館」</td><td>３時間</td><td colspan="2">「環境と人間のふれあい館」を再度訪問し，語り部の方から具体的な話を聞いたり，講義を受けたりして学習を深める。</td></tr>
<tr><td>校外学習の振り返り・環境問題について考える</td><td>２時間</td><td colspan="2">学校で私たちの未来のために，環境の視点から「できること」は何かを考える。</td></tr>
<tr><td colspan="4">○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
環境と人間のふれあい館の人々</td></tr>
</table>

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

・「環境と人間のふれあい館」で水環境の大切さについての映像の視聴や資料があることによって興味関心が高まった。また，水の量をペットボトルで表した資料など視覚的にわかりやすい資料が多かった。

・「環境と人間のふれあい館」で水環境の大切さについて，水質を確かめる実験を行った。その実験を通して，水の環境を守るために自分たちができることを改めて実感することができた。

・「環境と人間のふれあい館」で新潟水俣病ついての映像が子どもたちにとってわかりやすいものになっていた。

・「環境と人間のふれあい館」で新潟水俣病について，語り部さんの話を聞くことでより新潟水俣病によって苦しんだ人たちの思いを理解することができた。

・初めに１回目の校外学習を行い，興味関心を高め，学習を進めてから２回目の校外学習を行うことで理解を深めることができた。

課題

・今回は，予定変更等があり，語り部さんの話を直接聞くことはできなかった。直接聞き，質問などをする機会がとれるとより学びが深まると感じた。


自浄作用
有機物
微生物
実験結果
実験結果


第②次消費者
食物連鎖ってなんだ？
Mechanics of a "Food Chain"
第①次消費者
生産者


水の旅
浄水場
工業用水


魚がすめる
水質に
するために

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立大淵小学校	**5年1組（28）**	**2月15日**	**社会**	**教諭・吉田和輝**

・主題名

「環境をともに守る」

・ねらい

自然環境について，現在の起きている環境問題を調べたり，自分の生活との結びつきを考えたりする活動を通して，環境を守るために自分ができることを考えることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	○現在の環境問題について知っていることを確認する。 ○資料集の中で取り上げられている環境問題について今までの学習を想起させながら確認させる。	●今までの学習や生活の中で得た知識から知っている環境問題についてノートにまとめる。 ●地球温暖化、水質汚染、大気汚染、ごみ問題がある。 ●資料集を使い，環境問題について確認する。 ●酸性雨や森林伐採などもある。	資料集P.2
15 10	学習課題 環境を守るために実践できることは何か。 ○自分が環境を守るために実践できる内容を考えさせる。 	●自分の生活を振り返り，環境を守るために実践できそうな内容を資料集等を使いながら考える。 ●考えたことをグループで確認し，その後全体で発表する。 	

	○発表された物を分類して板書する。		
10		●振り返りでこれから自分が実践していくこと，今回の授業で環境問題について考えたことをノートにまとめる。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・環境問題は一人一人が気を付けていかなければいけないのでこれからは節水、節電に気を付けたい。

・環境問題は世界の一人一人が気を付けることや協力することで改善される。

・環境を守るために自分ができることを見つけ、実践する。例えば、食べ残しをなくす、エコバッグを使う、ごみ拾いなどをやる。

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立新津第二小学校	担当(職・氏名)	教諭・成田麻美
学習テーマ	新津川の水質を改善しよう。		
活動のねらい	新津川の水質を改善し，サケが住めるような環境を作る。		

○　新潟水俣病とのかかわり

　かつての新津川は，サケが生活できる川だったが水質環境が悪化し，住めなくなってしまった。新潟水俣病でも川が工場排水によって大きな影響を受けた。新潟水俣病について学ぶことを通して，校区のシンボルである新津川の環境改善に向けてのヒントを得たい。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

　学区に流れている新津川には，かつてはサケが遡上してくる川だったが，現在は水質環境が変化し，魚が住める川ではなくなってしまった。当校の 5 年生は，新津川にサケが帰って来られるような川にしようと総合的な学習の時間に学習を進めてきた。6 月には，新津川の水質調査を行い，生き物が住むことができる水質ではないことが分かった。新津川が汚れた原因には，生活排水や農薬が流れてきたことが原因の一部であることが分かった。新潟水俣病の悲劇的な歴史を学ぶことを通して，環境の保護，住みよい地域社会をつくり出そうとする態度を育てるとともに，人間の尊厳，生命の尊重といった人権尊重の大切さを認識させたい。

○　活動詳細

講義，水質調査，環境整備，まとめ学習

実施期間	４月　　～　３月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新津地域整備部・講義	2	・新津川が果たしている役割，河川法，新津地域整備部の業務内容について学んだ。
新潟薬科大学小瀬教授 ・講義，水質調査	2	・水質の定義について講義をいただいた後，新津川での水質調査（ＤＯ，ＣＯＤの計測）を行った。
新潟シティガイド 本田富義さん・講義	1	・新津川の歴史について学んだ。
新津スイセン物語 ・スイセン植え	2	・新津川の土手に環境美化のために，スイセンの球根を植えた。
新潟県立環境と人間のふれあい館館長による講義	1	・新潟水俣病の概要や被害などについて学んだ。
調べ学習・まとめ学習	適時	・学んだ内容についてまとめ学習を行った。分からないことについて調べ学習を行った。
学習発表会	1	・３月に予定している。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・新津地域整備部
・新潟薬科大学　小瀬教授
・新潟薬科大学　大野先生
・新潟薬科大学　学生の皆さん
・新潟シティガイド　本田富義さん
・新津スイセン物語（新津川土手の植栽団体）
・新潟県立環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

〔成果〕

・新津川の歴史を新津地域整備部・地域の方から教えていただき，新津川が果たしている役割を知ることで，新津川に愛着をもつことができた。
・約30年間に渡って新津川へのサケの放流に取り組んできた。長年，新潟薬科大学の協力を得て水質調査や生物調査をし，新津川の汚れの原因を知ることが，学習内容の一つであった。そこで，今回の環境学習を通して，三面川・阿賀野川の実態・状況を見聞できたことで，さらに子どもの見地を広げることができた。
・イヨボヤ会館に行き，サケが遡上する三面川を見ることで，新津川との違いを考えることができた。
・新潟水俣病の学習を通して，子どもたちなりに人権問題や環境問題を捉えることができた。被害にあった方々が健康被害や差別・偏見など様々な大変な思いをしたことや，今ある環境を守り，改善していくことの大切さを理解することができた。
・総合的な学習に環境学習を位置付け，継続的に学習していく基盤づくりができた。

〔課題〕

・理想とする新津川の姿を実現するために，地域とともに何をするべきか，何ができるのか考えていく必要がある。
・今後も，サケの遡上で有名な三面川や谷根川と新津川とを比較しながら，環境改善の方向性を探り，行動へ移していくことが必要である。

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立新津第二小学校	５年２組（３６人）	11 月 15 日	道徳	教諭　成田麻美

・**主題名**　公正・公平な社会を目指して　「ある新潟水俣病患者の訴え（生きるⅢ）」

・**ねらい**　新潟水俣病の歴史や新潟水俣病の原因追及，公害病認定に向けて懸命に闘ってきた人の生き方を学ぶことを通して，誰もが幸せになれる社会とはどんなものか考えさせ，社会的な差別や偏見と向き合い，公正・公平な態度で行動し，社会正義の実現に努めようとする心情を育てる。

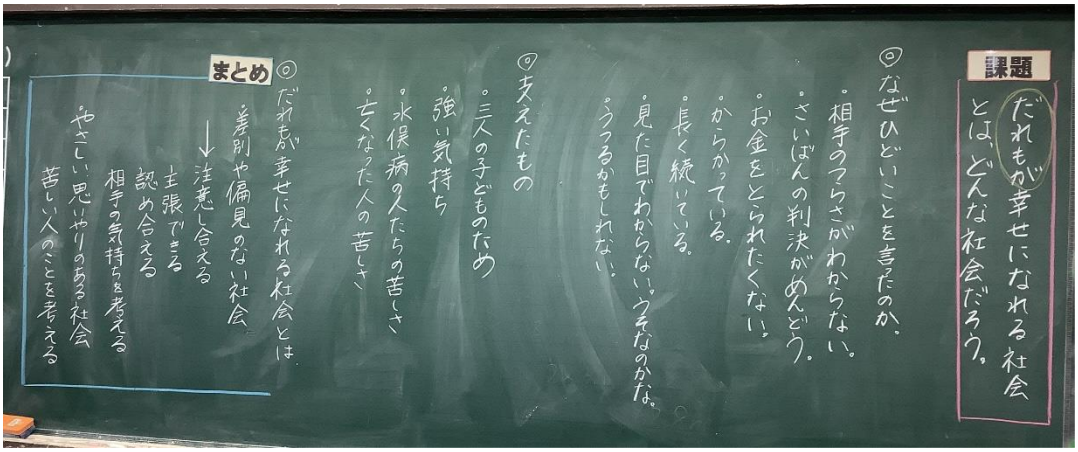
配　時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5 分	みなさんが思う「幸せ」とは，どんなものですか。 ・幸せについて自分の考えをふり返させる。	・おいしいものが食べられること。 ・好きなことができること。 ・家族がいること。 ・毎日元気に楽しく過ごせること。	
35 分	〔学習課題〕　だれもが幸せになれる社会とは，どんな社会だろう。 ・課題を提示し，「だれもが幸せになれる社会」について考えていくことを確認する。 ・「ある新潟水俣病患者の訴え（生きるⅢ）」を読んで話し合う。 新潟水俣病とは，どんな病気でしたか。 ・新潟水俣病について学習したことも想起させる。	・工場が流した水銀が関係している。 ・阿賀野川の魚を食べて病気になった。 ・手足がマヒする病気。 ・見た目ではわからない。 ・差別されている。	P71～76 の指導案

	資料にある言葉を言った人は，どうしてそんなことを言ってしまったのでしょうか。		
	・差別をする人の心中を想像させる。	・なんとなく，軽い気持ちで言ってしまった。 ・相手の辛さがわからないから。 ・からかって言ってしまった。 ・見た目ではわからないから，嘘なのかと思った。 ・自分にうつるかもしれないと思って，怖くて言った。	
	今，言ってくれたことは，差別をしていい理由になりますか。		
	・児童から出た意見について，それが差別をしてもよい理由になるかを問う。どんな理由でも差別は絶対にいけないということを強調する。 ・想像した差別者の心の中の思いは，児童自身にもあることを確認し，児童も差別してしまう危険があることを伝える。	・ならない。 ・みんなが言ったから，仕方がなかったのかもしれない。 	
	差別や偏見の中でも負けずに闘えた「わたし」を支えたものは何だと思いますか。		
	・差別や偏見に立ち向かった「わたし」を支えたものは何かについて考える。	・三人の子どものため。 ・強い気持ち。 ・患者さんたちの苦しさ。 ・亡くなった人の苦しさ。	
	「新潟水俣病の問題」を通して，誰もが幸せになれる社会とは，どのようなものなのか，また，そのような社会を実現するためには，どんなことが必要なのか考えましょう。		
	・病気や障害のある人に対する偏見に向き合って考えさせる。	・差別や偏見のない社会。 ・自分の思いを主張できる社会。 ・いろんな立場の人を認め合える社会。 ・やさしい，思いやりのある社会。 ・相手の気持ちを考えることのできる社会。	

	今日の学習をまとめましょう。 ・児童の言葉で学習のまとめをする。 〔まとめ〕 だれもが幸せになれる社会とは ・差別や偏見のない社会　・やさしい，思いやりのある社会	児童のロイロノートのカードより 「新潟水俣病患者の訴え」 差別や偏見の中でも負けずに闘えた「わたし」を支えたものは何だと思いますか。 私は、三人の子供と他の水俣病になってしまった人（仲間）や自分の気持ちだと思います。 「誰もが幸せになれる社会」とは、どのようなものでしょうか。その社会を実現するためには、どんなことが必要なのでしょうか。 ・偏見や差別のない社会 ・優しい思いやりのある社会 ・誰かが間違っていたら注意し合える社会 ・主張できる社会 ・認め合える社会 ・相手の気持ちを考えられる人がたくさんいる社会
5分	今日の学習をふり返りましょう。 ・「新潟水俣病」について考えたことや，今日の学習で学んだことを振りかえらせる。	「新潟水俣病」について考えたことや、今日の学習で学んだこと・感想を書きましょう。 たくさんの人から差別されてしまっても、初心のままで自分の気持ちを忘れずに仲間のや子供の思いを背負って、闘い続けた語り手の人はすごいと思いました。私も差別をしないで、社会には色んな人がいることを忘れないようにしたいです。

・授業後の子どもたちの考え等

・たくさんの人から差別されてしまっても，初心のままで自分の気持ちを忘れずに仲間や子どもの思いを背負って，闘い続けた語り手の人はすごいと思いました。私も差別をしないで，社会にはいろんな人がいることを忘れないようにしたいです。
・今日の勉強を通して水俣病の人は，いろんな人に差別や偏見をされてすごく不愉快だったのに，社会に立ち向かっているところがすごいと思いました。これからは，差別や偏見をなくすために，相手の気持ちを考えて優しく，思いやりのある社会にしていきたいと思いました。
・誰もが幸せになれる社会は，差別や偏見がない社会がいいということが分かりました。相手の気持ちを考えることが大切なんだなと思いました。苦しい人の気持ちを考えて行動できるように頑張りたいなと思いました。
・相手が傷つくような言葉を言わないで苦しい人のことも考えて差別や偏見のない社会が当たり前になるといいと思います。それに見た目ではわからないことを勝手に決めつけて言うのはいけないと思いました。



【活動の様子】

○　新津地域整備部の方の講義





○　新潟薬科大学の先生の講義と水質検査









○　新津川　スイセン植え



○　環境と人間のふれあい館　館長より講義



■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立大鷲小学校	担当(職・氏名)	講師　浅井むつみ
学習テーマ	公害を乗り越えた地域では，環境を守り続けていくために，どのような取り組みをしているのだろう。また環境を守るために自分たちができることは何だろう。		
活動のねらい	身近な自然を調べる学習を通して，環境と生物とのかかわりについて理解し，環境を保全していこうとする態度を育む。昔の公害の歴史を知ることで，苦しい経験をした人たちの思いと努力を感じ，環境を守り続ける大切さを忘れない心情を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・あがのがわ環境学舎の講師の方から，新潟水俣病の概要・被害についての授業をしてもらう。
・阿賀町の旧昭和電工鹿瀬工場周辺の見学する。
・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，職員の方から説明を受けたり，語り部さんから直接話を聞いたりして，正しく新潟水俣病を理解する。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
・四大公害病について調べ，ふるさと新潟にも新潟水俣病があったことを知る。
・あがのがわ環境学舎の講師の方から講義を受ける。
・阿賀町昭和電工鹿瀬工場，鹿瀬ダムの現地学習をする。
・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，語り部さんからお話を聞く。

○　活動詳細

実施期間	令和４年５月～令和４年１１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病ガイダンス	1	○教師の講義（四大公害病） ○学習のねらいと目的の共有
新潟水俣病について知る	2	○DVD 視聴（悲劇を繰り返さないために） ○阿賀の学習教育サイト YouTube 動画視聴
あがのがわ環境学舎講師授業	2	○あがのがわ環境学舎の講師の方からの講義（スライド） ○ワークシート記入 ○児童同士の意見交流活動
あがのがわ環境学舎ツアー	4	○旧昭和電工鹿瀬工場・鹿瀬ダム見学
環境と人間のふれあい館見学・語り部さん話	4	○環境と人間のふれあい館職員の方からの話 ○語り部さんの話
川の学習（信濃川について）出前授業・校外学習	6	○自分たちの身近な川である信濃川の調査 ○国土交通省の職員による授業・水上からの見学
クラスでの発表･振り返り	5	○グループでのまとめ作成（ロイロノート） ○グループでの発表準備・練習 ○グループでの発表・個人でのまとめ（作文）

総合発表会準備	５	○総合発表全体発表会の準備 ○発表スライド作成 ○発表原稿作成・練習
○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。） 環境と人間のふれあい館の職員，語り部さん あがのがわ環境学舎の講師の方 信濃川下流河川事務所の職員の方 信濃川ウォーターシャトル		

○　成果と課題

【　成果】

・あがのがわ環境学舎の講師の方からの講義，現地見学を通して，児童は，産業の発展の裏にある悲しい歴史（新潟水俣病の発生原因や人権問題）について，深く学び考えることができた。
・新潟水俣病が過去の話ではなく，今も続いていることを知った。
・新潟水俣病のせいで，周りから差別を受け，心も体も傷つけられた人が大勢いたことを知った。
・どんなことがあっても，人を差別したりいじめたりするようなことはあってはいけない，という気持ちを強くもった。
・水の汚れが自分たちにとって大きな影響があるということを認識し，水環境を守っていかなければならないという意識を高めることができた。
・正しい知識をもって，公害の恐ろしさを伝えていくことの大切さを感じた。
・川新聞づくりや環境カルタづくりを通して，学んできたことを絵や言葉でまとめ，他学年や保護者に伝えることができた。

【課題】

環境を守り続けるための具体的な取り組みについて，もっと深く意識付けできればよかったと思う。

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立大鷲小学校	**5年1組（12人）**	**4月15日**	**社会**	**講師　浅井むつみ**

・主題名　公害を二度と繰り返さないために～新潟水俣病～

・ねらい　阿賀野川流域が四大公害病の一つである新潟水俣病の発生地域であることを知るとともに，阿賀野川と人々のかかわりを知り，川の恵みは人々の生活にとってなくてはならないものであることを理解させる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
3分	○四大公害病という言葉について質問する。聞いたことがあるか。	●初めて聞いた。 ●そんな病気があったなんて全く知らなかった。	
	教科書で四大公害病のあらましを調べましょう。		
10分	○四大公害病の発生場所と原因のあらましを教科書で確認し，本，百科事典で調べる。 （未来のために学ぶ） （AGA　MINAMATA　写真集）	●水俣病，新潟水俣病，イタイイタイ病，四日市ぜんそくは，大きな被害を人々に与え，「四大公害病」と言われた。	教科書 本
	新潟水俣病が発生した阿賀野川について調べましょう。		
25分	○阿賀野川の位置を地図で調べ，人々の暮らしについて知ろう。	●新潟県の北部に位置し，日本海に流れる大河。 ●阿賀野川は，漁業だけでなく，農業や輸送，日常の生活に深いかかわりをもち，流域の人々の生活を支えてきた。	地図帳 DVD
	新潟水俣病について，もっと調べたいことはどんなことですか。		
7分	○事柄を整理し，詳しく調べたいことを考える。	●新潟水俣病はどのようにして起きたのか。 ●どのような経過をたどって人の体に入ったのか。 ●患者の苦しみや思いはどんなものだったのだろうか。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・５０年前の川の水のことが原因で，今も苦しんでいる人がいるなんて驚いた。どうしてそんな病気が発生してしまったのか，原因を知りたい。

・同じ患者なのに，どうして認定された人とされない人がいるのか，知りたい。

・仲のよかった人たちが，差別したり，悪口を言ったりするようになるなんて，人の気持ちは変わるものだと思って悲しかった。

・昭和電工の工場は，メチル水銀をどうして流してしまったのか知りたい。

・今も解決していないのはどうしてなのか。

・今よりも川が生活になくてはならないということを知った。（食料として）

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	内野小学校	担当（職・氏名）	教諭・永田冴香
学習テーマ	環境を守るために自分たちにできることを考えよう		
活動のねらい	公害について調べる活動を通して，生活環境の改善のために人々がした努力について理解を深め，公害から環境や健康な生活を守ろうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

「環境と人間のふれあい館」を見学したり，語り部の話を聞いたりすることを通して，新潟水俣病の原因，歴史，裁判，現在の状況を知り，環境保全や人権問題について関心を高める。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）
①社会科の学習で環境問題や公害についての理解を深め，新潟水俣病について知る。
②新潟水俣病の発生地域，原因，病気や裁判について知る。
③道徳で「生きるⅢ」を学習し，新潟水俣病患者に対する差別や心の苦しみについて考える。
④環境と人間のふれあい館を見学したり，語り部から話を聞いたりして，水俣病への関心・理解を深める。
⑤新潟水俣病について学んだことや調べたことをまとめる。

○　活動詳細

実施期間	10 月～11 月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
１社会「環境をともに守る」	５	・過去に北九州市で公害があったことを知らせ，公害解決に向けて人々がどんな取組をしたか調べる。 ・新潟水俣病について知らせ，新潟水俣病の原因や発生地域，症状，裁判について調べる。
２道徳「生きるⅢ」	１	・水俣病患者が病気だけでなく差別にも苦しんでいたこと，差別に立ち向かおうとしたことを資料から読み取り，新潟水俣病を正しく理解することの大切さや差別を許さない心について話し合う。
３県立環境と人間のふれあい館見学	４	・語り部から新潟水俣病の病気や差別の辛さや苦しみ，裁判の経緯や語り部としての活動について話を聞く。 ・館内を見学して，様々な資料から新潟水俣病についての理解を深める。
４社会	２	・環境と人間のふれあい館で分かったことをグループごとにロイロノートにまとめ，学級で発表する。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

新潟県立環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・社会や道徳で学習する新潟水俣病の学習の一環として，「新潟県立環境と人間のふれあい館」を見学することができた。語り部の話の映像鑑賞や館内見学から新潟水俣病に関する様々な内容に触れることができた。子どもたちが新潟水俣病について正しく理解することの大切さを学び，差別をしてはいけないという気持ちを高めるきっかけとなった。

・環境と人間のふれあい館から，新潟水俣病に関する内容が端的にまとめられた映像資料を事前に借りることができたため，見学前に視聴させた。「生きるⅢ」の「ある水俣病患者の訴え」で学習した新潟水俣病に係る裁判の内容等は，子どもにとって理解に時間のかかる内容であったが，この映像視聴の鑑賞により，理解が深まった。また，リーフレットも事前に配布されたため，見学前に事前知識をもつことができた。

【課題】

・本事業のために単元の入れ替えを行ったため，学習の計画・進度等の修正が必要となった。また新型コロナウイルス感染症の流行により，見学の日程に急な変更が出てしまい，再度スケジュールを調整するのに手間がかかった。

・環境と人間のふれあい館見学前に，新潟水俣病の発生した経緯や症状，患者と国との裁判の様子など事前指導の時間をより多く確保することで，見学での学びをさらに充実させることができたと考えられる。事前に環境と人間のふれあい館から配布されたリーフレットを読み込んだり，子どもがそれを使って新潟水俣病について様々なことを調べたりする時間を取った方が良かった。

写真資料１

新潟県立環境と人間のふれあい館見学の様子









新潟県立環境と人間のふれあい館に行き，語り部さんが新潟水俣病についてお話する映像を鑑賞しました。当時の生活の様子や，自身の症状，実際にあった差別など，貴重なお話を聞くことができました。子どもたちは，メモをとりながら真剣に聞き，新潟水俣病について深く考えるよい機会となりました。

学習のまとめの様子







新潟水俣病について分かったことを班ごとにロイロノートでまとめ，クラスで共有し合いました。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

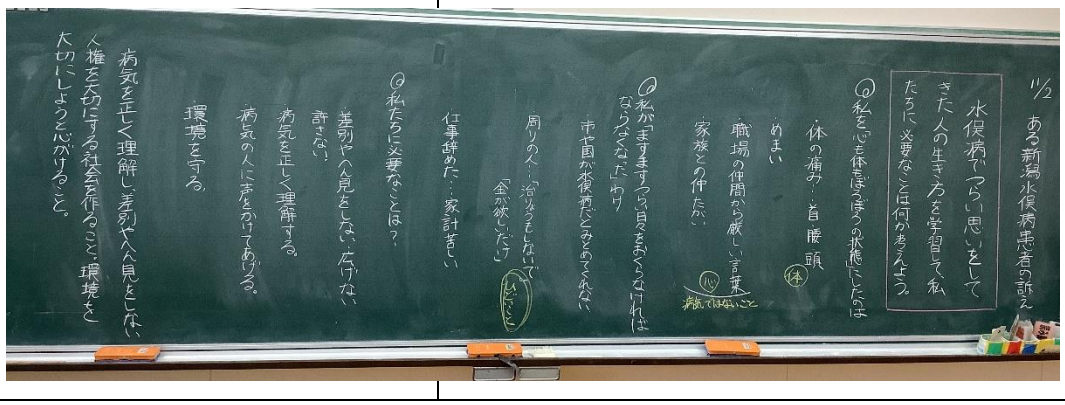
学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
内野小学校	**31**	**11月2日**	**道徳**	**教諭･永田冴香**

主題名　ある新潟水俣病患者の訴え

ねらい　新潟水俣病患者が受けた病気や差別の苦しみを考える活動を通して，自分たちに必要なことは何かを考える。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5分	水俣病はどんな病気でしたか。 ○前時までに DVD「新潟水俣病と阿賀野川が教えてくれたもの」を視聴させ，水俣病がどのような病気なのか理解させる。 今日は水俣病の人が受けた苦しみについてさらに詳しく考えましょう。 （学習課題） 水俣病でつらい思いをしてきた人の生き方を学習して，私たちに必要なことは何か考えよう。	**●視界が狭くなる。** **●頭痛が起こる。** **●最悪の場合，命に係わる。** **●公害でこんな病気になるのはかわいそう。**	
10分	○教師が資料を読み聞かせる。 「わたし」を「心も体もぼろぼろの状態」にしたのは何だったのでしょうか。 ○水俣病患者が受けた苦しみが病気だけではないことに気付かせるために，仕事や家庭での辛い経験を問う。	**●首や腰の痛み。** **●頭痛やめまい。** **●病気で仕事がうまくいかないせいで職場の仲間から厳しい言葉を言われたこと。** **●仕事の疲れや病気のせいで家事もうまくできなくて家族と仲違いしたこと。** **●病気と認められないことにも苦しんでいた。**	生きるⅢ「ある水俣病患者の訴え1」
10分	○教師が資料を読み聞かせる。 「わたし」が「ますますつらい日々をおくらなければならなくなった」理由は何ですか。 ○水俣病患者が２０年も裁判を受けてきたことを伝え，長年苦しみが続いたことを想起させる。	**●工場の廃水が原因だと分かったのに，市や国が水俣病だと認めてくれなかったから。** **●周りの人から，「病気の治療もしないで」，「金が欲しいだけ」などと言われるようになったから。** **●健康なら続けられた仕事を辞めることになってしまって，家計が苦しくなったから。** **●周りの人からひどいことを言われている。**	生きるⅢ「ある水俣病患者の訴え2」

15分	○教師が資料を読み聞かせる。 この学習を通して，私たちに必要なことは何だと思いましたか。 ○水俣病の原因が何か問い，環境保全の大切さに気付かせる。	●差別や偏見をしないで病気の人を心配してあげる。 ●差別や偏見を広めないで，もし言っている人がいたら「そんなことを言ってはいけない」と言う。 ●水俣病を正しく理解して，差別する人に教えてあげる。 ●環境問題や公害を起こさないように環境を大切にする。	生きるⅢ「ある水俣病患者の訴え３」
	（まとめ） 病気を正しく理解し，偏見や差別をしない，人権を大切にする社会を作ること。また，自然環境を大切にしていこうと心がけること。		
5分	○振り返りを書かせる。	●これからも差別をせず，差別されている人に寄り添うようにしたい。 ●新潟水俣病について正しく理解して，差別をしないようにしたい。 ●差別をしている人に，差別はだめだと教えたい。	



授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・差別をしている人がいても，それをくりかえさないで、苦しんでいる人の味方になる。

・私たちに必要なことは，みんなの親切さややさしさだと思いました。

・水俣病のことを正しく理解したい。

・差別を受けている人に「大丈夫？」などの声かけをして，その人のことを受け入れてあげればいいと思う。

・この学習を通して，みんなの親切さややさしさが大事だと思いました。

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立赤塚小学校	担当（職・氏名）	教諭　野澤　奈々絵
学習テーマ	「学校の近くの自然や水について調べよう。」		
活動のねらい	身近な自然を調べる学習を通して，佐潟の自然環境について理解を深め，佐潟に対する愛着をもち，自分達の住んでいる土地を大切にしていこうとする気持ちを育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

　佐潟と福島潟，２つの潟の周りの自然環境やこれまでの歴史，水質などについて学習する。その中で新潟水俣病を知り，水による公害について学び，今後の環境保全に活かしていこうとする気持ちを育てる。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・佐潟の自然について調べる。
・福島潟や水俣病についての学習を深める
・佐潟と福島潟について類似しているところや異なっているところを挙げ，環境保全についての課題を設定する。
・身近な佐潟を守っていきたいという思いを伝える。

○　活動詳細

実施期間	７月～１１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
佐潟　見学	３	佐潟に生息する植物や鳥類について学習を深める
福島潟　見学	３	福島潟付近の様子や福島潟に生息する植物や鳥類について学習を深める
環境と人間のふれあい館見学	３	水の汚れの原因や水俣病についての理解を深める
３つの見学を通して感じたことを学級で共有する	２	
課題を設定する	１	課題を明確にし，３つのグループに分ける 〈佐潟の自然〉〈水の汚れ〉〈水俣病〉
調べ学習を行う	３	各グループで詳しく調べ，まとめる
発表する		タブレットにまとめ，発表を行う。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・佐潟湿地センターの方々
・ビュー福島潟の方々
・環境と人間のふれあい館の方々

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

《成果》
・身近な自然（佐潟）について，より学びを深めることができた。
・福島潟と佐潟という２つの潟について，異なる点や類似する点を見付けることができた。
・水俣病という公害について，学習を深めることができた。
・自分達の生活に大きく関わる水という資源について，深く考えられるようになった。
・水をきれいに保つことが，自然界に生息する生き物を守ることにつながると気付くことができた。
・現代を生きている自分達のことだけではなく，未来を生きる人々のことを考えられるようになった。
・次学年の総合の学習で行う「ハスの再生」に向けて，福島潟と佐潟のハスの在り方の違いに意識を向けることができた。

《課題》
・一人一人が環境問題についての課題を深く考えられると良かった。
・今回学んだことから，次年度の「ハスの再生」につなげていくために，より深い調査と意識付けが必要である。

７月　佐潟見学



佐潟　見学



潟舟　体験



佐潟のハス　観察

７月　環境と人間のふれあい館　見学



環境と人間のふれあい館

水質　検査

福島潟　見学

福島潟　見学

佐潟との違いを感じる





ビュー福島潟

オニバス

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立赤塚小学校	**4年1組　39名**	**10／24**	**総合**	**教諭　　野澤　奈々絵**

・主題名　　「学校の近くの自然や水について調べよう。」
・ねらい　　身近な自然を調べる学習を通して，佐潟の自然環境について理解を深め，佐潟に対する愛着をもち，自分達の住んでいる土地を大切にしていこうとする気持ちを育てる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	自然環境について地域の人に伝えよう。 ○佐潟・福島潟・環境と人間のふれあい館の見学を通して，感じた環境の問題などについて，意見を出させる。	〈佐潟〉 ●水の色について。 ●ハスがないこと。 ●鳥類・植物などたくさんの生き物が生息している土地である。 〈福島潟〉 ●オニバスが生息する潟である。 ●佐潟とは違い，川の水とつながっている。 〈環境と人間のふれあい館〉 ●有機物質による水の汚れ。 ●川の魚を原因とする水俣病の発生。 ●差別や偏見。	
15	水俣病はどんな病気なのだろうか。 ○水俣病のパンフレット「新潟水俣病２０の疑問」を用いて，水俣病の原因や症状について確認する。	●阿賀野川付近の人たちは，川の水を生活の一部として使っていたんだ。 ●辛そうな症状がたくさんあったんだな。 ●「お金目当てのニセ患者」なんて言う人がいたんだね。 ●今でも苦しんでいる人がいるんだ。	教師用資料 P６３活用。
20	○〈佐潟〉〈水の汚れ〉〈水俣病〉の３つのグループに分かれて，詳しく調べましょう。 	〈佐潟〉 ●鳥や植物がたくさん生息している。絶滅危惧種もいる ●それらを守っていきたいことを伝えたいな。 〈水の汚れ〉 ●ぼくたちの生活から出ている生活排水が水をすごく汚す原因になっているんだね。	

		●何とかできることはないのかな。 ●調味料や洗剤はなるべく少ないほうがいいんだね。 〈水俣病〉 ●患者さんたちはすごく辛い思いをしたんだね。 ●何も悪いことをした訳じゃないのに差別まで受けたんだ。 ●このことはたくさんの人に伝えたいね。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・川の水が原因で水俣病という公害が始まったことが分かった。

・ぼくたちの近くにある佐潟の自然を，ぼくたちが守っていかなければと思った。

・調味料などが水を汚していることが分かった。むだに出さないで，水をきれいに保ちたい。

・学習で分かったことを，家族や地域の人にも伝えたいと思った。

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立中之口東小学校	担当（職・氏名）	教諭・渡邉　智宏
学習テーマ	地域の宝の中ノ口川の自然や人との関わりについて調べよう		
活動のねらい	中ノ口川の生き物や水の様子を調べる活動を通して，中之口川の良さや課題について気づき，川の環境を保全するためにできることに取り組もうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

中ノ口川にごみを捨てない，水辺のクリーン活動を通して川をきれいにすると良いと安易に考える児童に，新潟水俣病について学ぶことで，自然や私たちの生活は簡単に戻せないことを学ぶ。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

地域を流れる中ノ口川の水が，水田や特産品の果樹（桃，葡萄など），飲み水などに広く利用されていることを知った児童は，地域の川の歴史を学び，大切な中ノ口川を守る環境保全ポスターを制作した。すべての児童は「ごみを捨てない」「ごみを拾う」と良いと考えていた。そこに，新潟水俣病について学ぶことで，水を汚すとはどういうことか，私たちの生活はどうなるのか，自然を元の姿に戻すことがどれほど難しいかを学んだ。中ノ口川の環境を保全するとは，自分たちの命や安全な生活，自然や農産業を守ることにつながると，より深く考えるようになった。さらに，漁協の方々の川を守る取組から，川と海の関係や，川の恵み等について学び，児童は自分たちの中ノ口川を一層大切しようとする思いを強くした。

○　活動詳細

実施期間	５月～　　１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
なぜ果樹栽培が盛んなの？	３	３年総合「特産品」から盛んになった理由を探る。
恐怖と恩恵を運ぶ中ノ口川	８	中ノ口川がもたらした「恐怖と恩恵」を知る。（洪水）
洪水を防ぐ先人の努力	１０	中ノ口川の洪水の歴史と，先人による長年の努力が生んだ大河津分水路。もたらされた安心安全で豊かな暮らし。
中ノ口川を楽しもう	３	白根地域の中ノ口川との関り（白根大凧合戦）や，川を中核にした地域の活性化の取組を学ぶ。
中ノ口川を大切にしよう	６	河川環境ポスターの作成
ごみを拾えばいいの？捨てなければいいの？	１２	新潟水俣病の発生と，今も苦しむ人々。資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」「新潟水俣病２０の疑問」，「ＤＶＤアニメで学ぶ水俣病」から学ぶ。環境と人間のふれあい館の見学。
もっと知ろう，川の恵み	８	五十嵐漁協の取組から学ぶ。鮭の採卵ふ化や放流
学習の成果を発表しよう	１２	班ごとにプレゼンでまとめて，映像で保護者に伝えよう。 ４年生みんなで，キラにこ学習発表会で全校や保護者，ボランティアさんに学んだことを伝えよう。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・地域学習ボランティア　鏡　幸平　様
・信濃川大河津資料館　様
・新潟県立環境と人間のふれあい館　様
・五十嵐川漁業協同組合　様

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・３年生の総合的な学習の時間で「地域の特産品 桃や葡萄から学ぼう」で，桃や葡萄が地域の特産品であることや，果樹栽培にかける生産者の思いを学んだ。前年の学習を土台に，４年生では，児童が，果樹栽培が盛んになった理由を「水と土」に着目し，それらをもたらす中ノ口川と地域の歴史について興味をもって学ぶことができた。
・地域で繰り返し起こった洪水の被害やその後の苦しい生活について学んだ。信濃川大河津資料館や洗堰の見学で，分水路の建設にかける先人の思いや努力により，現在の安心安全で豊かな生活になったことや，おいしい米の生産，新幹線や高速道路の開通による新潟市の発展など，自分たちの生活に深くかかわっていることを児童は実感していた。
・河川環境ポスターの制作では，すべての児童が「ごみを捨てない」「ごみを拾おう」と呼び掛けた。そこで，新潟水俣病の資料（「新潟水俣病が教えてくれたもの」「新潟水俣病２０の疑問」，「ＤＶＤアニメで学ぶ水俣病」）を基に学習した。さらに新潟県立環境と人間のふれあい館の見学で語り部の立川さんの話や資料から，破壊した自然環境は簡単には戻らないことや，今も多くの人が新潟水俣病で苦しんでいることを児童は学ぶことができた。中ノ口川を大切にすることは，自分たちの暮らしや地域の農産業を守ることにつながっていることに気付き，中ノ口川の環境を大切にしたいという思いを強くしていった。
・五十嵐川漁業協同組合の方から，川から鮭を捕獲する様子や，採卵ふ化の作業工程を見学したり，放流した稚魚が川から海へ下り，再び成魚になって川を上ってくることなどを教えていただいたりした。また後日，朝の読み聞かせで「鮭の一生」の物語を聞いたことで，川の恵みについての理解と共に，川を大切にしたいという心情をより確かにすることができた。

（課題）

・「中ノ口川」を題材にした単元構成を，児童の発達段階に合わせて体験を重視した内容に今年度見直した。中之口地域では，中ノ口川は農業用水と浄水場の水源が主な活用で，護岸も児童が近づけるようにはなっていなかった。児童には「近づいてはいけない地域の危ない場所」との捉えで，学習の題材として身近に扱うのが難しかった。また，中ノ口川に生息する淡水魚を飼育しながら学習を充実させたいと考えたが，地域で採取している方や，取り扱っている業者等も見当たらなかった。学習のはじめに，４年生が直接中ノ口川を身近に感じる手立てが少なかった。

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立中之口東小学校	**第4学年（20名）**	**9月20日**	**総合**	**教諭・渡邉　智宏**

・主題名　地域の宝の中ノ口川の自然や人との関わりについて調べよう

・ねらい　児童の作成した川の環境ポスターを元に，課題「川を大切にするとはどういうことだろう」について考える中で，資料「ＤＶＤアニメで学ぶ水俣病」や，「新潟水俣病が教えてくれたもの」を通して，破壊した自然環境は簡単には戻らないことや，多くの人の健康を蝕み，今も新潟水俣病で苦しんでいることなどを理解し，安心安全な生活や社会全体で自然環境を守ろうとする実践意欲を高めることができる。

【参考】　指導資料集「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために」P42 - 45

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	・河川環境ポスターを提示する。		
	河川環境ポスターにどんな思いや願いを込めたのかな。		
	○児童が河川環境ポスターにどんな思いや考えを込めたか発表させる。	●班の仲間とポスターに込めたそれぞれの思いを交流する。 ●共通した思い等を発表する。	
	 	＜子どもの声＞ 自分たちの中ノ口川をごみで汚さないようにしたい。 ごみを拾ってきれいにしたい。地域のクリーン作戦にも参加したい。	
20	中ノ口川と阿賀野川の位置を確認しよう。人々は阿賀野川とどのようにかかわっているのでしょうか。		資料１ ・新潟市の地図 ・川漁の写真
	○中ノ口川と阿賀野川の位置をそれぞれ地図で確認し，どちらの地域も川の恵みが人々の生活と深く関わっていることを写真から気付かせる。	●どちらの河川も日本海に流れる大河である。 ●川に沿って地域が広がっていることから，自分たちと同様に飲み水や農作物，さらに魚を取って暮らすなど川の恵みを受けている。 （視点）　・川と食生活　・川と人々の生活 ・川と交通　・川と農業	
	阿賀野川の近くに住んでいる人々に，どのようなことが起きたのだろう。		・DVD ・資料 新潟水俣病が教えてくれたもの
	○新潟水俣病がどんな病気かを知る。 ○ＤＶＤから，直接的な人的被害と社会的被害についての悩みを知る。 ○社会的差別について説明する。	●突然，原因不明の病が地域に広がる。 ●体がしびれて仕事ができない。また，その「しびれ」は誰も分かってくれない。 ●魚が食べられない。売れない。生活できない。 ●声に出せない。社会的差別を受ける。	
	（学習課題） 川を大切にするとはどういうことだろう。		

	○ごみを捨てない，拾うという安易な方策では，新潟水俣病のように解決できない問題があることを理解する。	●周りの人々の心無い言動で苦しむつらさを知り，自然等の環境をみんなで守ったり，差別を生まない社会にしていったりする必要がある。 ●過ちを繰り返さない。そのためには，身近な自然を大切にしなくてはならない。	
	 ＜子どもの声＞ 自分の苦しさや大変さを分かってもらえないのはつらいな。 自分や子どもまでも差別されるって許せない。		
20	新潟水俣病について学んだことから，川を大切にするとはどういうことか。		
	○川や自然は私たちの生活に深く関係し，その環境を破壊すると，私たちの生活も破壊し，多くの被害者を出してしまうことを知り，今の私たちにできることを考えさせ，環境保全など実践への意欲化を図る。	●ごみを捨てないことや拾う活動は大切だが，一度破壊すると，私たちの安心安全な生活までも奪われる。新潟水俣病の教訓を大切にし，私たちの中ノ口川をずっと守っていきたい。 ●自分たちの周りの人の中にも，苦しさを抱えて生活している人がいるかもしれない。自分にできることをしたい。また，偏見や差別を生まない人，しない人にならなければならないと思う。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

- 今日の学習をふり返って，昔の阿賀野川では，大ぜいの人が乗った船を一人でこいでいたり，船からあみを引いて魚を取ったりしていてすごいと思いました。川が生活の一部だったことも分かりました。私たちの中ノ口川の近くに住む人も同じようにしていたのかなと思いました。その川が知らないうちに汚され，水俣病になった人がたくさんいました。手や足がしびれたり，温度が分からなくなったりして大変です。それなのに，周りから見ても分からないので，大変さを理解してもらえないつらさを知り，びっくりしました。また，メチル水銀が，お母さんのお腹の中の赤ちゃんにまで行ってしまうと，生まれつきしゃべれないこともあったと分かりました。今度は，環境と人間のふれあい館で，阿賀野川や新潟水俣病のことをたくさん調べていきたいです。
- 今日の学習で，阿賀野川周辺に住んでいる人たちが，毎日の生活を通して阿賀野川と大きく関わっていたことが分かりました。私たちの中之口地域の人たちも，同じように関わりながら自分たちの川を大切にしていたと思いました。資料から，今も新潟水俣病の症状で苦しんでいる人や，裁判で戦っている人も多いことが分かりました。新潟水俣病になった人たちが周りから理解されないでつらい気持ちになることも分かります。自分がひどいことを言ったり，差別したりする人にならないように，優しく接していきたいと思いました。家族にも話して，阿賀野川を見たいと思いました。
- メチル水銀に汚染された魚を知らずに食べていて，新潟水俣病になってしまったことが分かりました。手がしびれたり，見える範囲が小さくなったり，味が分からなくなったりとても大変な病気だと分かりました。新潟水俣病にかかってしまった人を差別しては絶対にいけないと思います。これからも新潟水俣病で苦しんでいる人のことも考えながら，もっと詳しく学習していきたいと思います。

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立南浜中学校	担当(職・氏名)	教諭・金子秋優美
学習テーマ	新潟水俣病についての学習を通して，環境保全や人権尊重について考えを深めよう。		
活動のねらい	新潟水俣病の現地学習を通して，新潟水俣病への正しい理解を深めるとともに，差別や偏見を身近な問題として認識させ，自ら解決しようとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・旧昭和電工（株）鹿瀬工場を見学したり，「環境と人間のふれあい館」で職員の説明や語り部の講話を聴いたりすることで，新潟水俣病についての理解を深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
　新潟水俣病について，ジグソー学習を行い，現地見学の前週には，あがののがわ環境学舎の職員の講義を受けた。現地見学では，鹿瀬工場と「環境と人間のふれあい館」を見学して学習を深めた。最後に，これからの社会をよりよくするための提言と自分ができることを考えた。

○　活動詳細
①新潟水俣病について，４つの観点でジグソー学習を行った。
②あがののがわ環境学舎の職員からグーグルマップを使い，阿賀野川流域を地図で確認しながら，鹿瀬工場が社会の変化に対応し生産品目が変化したことを学習した。
③旧昭和電工鹿瀬工場・鹿瀬ダム・排水口を見学する。
④「環境と人間のふれあい会館」で語り部の講話を聴いた後，施設見学をした。
⑤グループごとに分かれ，提言と自分ができることを考え，SDGs の項目を入れて，個人でまとめた。

実施期間	１０月～１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
学習ガイダンス	１	・新潟水俣病について基礎知識の学習を行う。 ・今後の学習について理解する。
事前学習①	１	・DVD「悲劇を繰り返さない」を視聴し，感想を書く。
事前学習②	２	①発生の経緯・原因・②身体的被害・③社会的被害・④水俣病の現在，４つの観点に分けて，ジグソー学習を行った。
発表	１	調べたことを全員で共有する。
直前講義	２	あがののがわ環境学舎の職員からの講義を受ける。
校外学習	１日	旧昭和電工鹿瀬工場周辺を見学する。 「環境と人間のふれあい館」で語り部の講話と施設見学
まとめ	２	これからの社会をよりよくするための提言と自分ができることを SDGs の項目を入れてまとめる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・あがのがわ環境学舎

・環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

≪成果≫

・新潟水俣病を通した環境学習を通して，新潟水俣病についての理解とそれに伴う社会の差別や偏見に気付き，環境保全や人権尊重について考えを深めることができた。

・学習ガイダンスとあがのがわ環境学舎の職員によるパワーポイントを使った講義は，視覚教材が充実しており，生徒の視覚に訴えものであり，新潟水俣病の理解を深めた。

・４つの項目に絞り込んでジグソー学習を用いて調べ学習を行うことで，各自が責任をもち主体的に活動することができた。

・あがのがわ環境学舎の職員から直前講義で，ジグソー学習で学んだ新潟水俣病の内容を確認でき，目的意識をもって現地学習に臨めた。

・現地学習ではジグソー学習と直前講義で学んだこととリンクし，深い学びにつながった。

・コロナ禍でも，実際に語り部の講話を目の当たりにし，生々しい当時の様子を垣間見る事ができた。今までの学習で知ることができなかったことや語り部の気持ちなど生きた情報を聴くことができ，差別や偏見を身近な問題として考えることができた。

・まとめの学習で，SDGs の視点で自分の立場に置き換えて自分ができることで，これからの生活に生かす態度が醸成できた。

≪課題≫

・調査活動を行ったが，タブレット活用が中心となり，配布された使用をじっくりと読みこむ生徒が少なかった。また，インターネットで調べた資料の読み取りが難しく，理解できないまま書き写しているだけの生徒がいて，班に戻った時に，他の班員にうまく説明できない様子が見られた。調査時間の増加と説明の工夫，調査活動中の支援の仕方などの改善が必要である。

・まとめの学習活動の中で，感じたことや考えたことを発表し合って振り返りをすれば，より学習が深まった。

提出締切　令和５年２月８日（水）

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立南浜中学校	**1学年（34名）**	**10月26日**	**総合的な学習**	**教諭・小林正文**

・主題名　**新潟水俣病～環境と人権問題を考える～**

・ねらい　**新潟水俣病について，その発生原因や被害について考え，調査学習を通して，新潟水俣病が環境を破壊し，人権を侵害したことを理解し，環境保全と人権尊重の重要性について考え，校外学習に向けて意欲を高めることができる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
導入（10）	ワークシートを配布 ○公害とは？スライドを使って説明する。	●説明 ・環境基本法では，事業活動やその他の人の活動に伴って生じる人の健康又は生活環境に係る被害と定義	ワークシート
	公害が発生したのはなぜか。		
	○公害が発生したのはなぜか，予想させる。（下はスライドの一例） 	●生徒の反応 ・自分勝手な人が多いから。 ・便利さを求めたから。 ・会社の利益を優先したから。 ・国が法律を作るなどの対策をしなかったから。	スライド（教師作成）
	○四大公害病とは？	●説明 ・新潟水俣病，水俣病，イタイイタイ病，四日市ぜんそく	
本時（30）	**（学習課題） 新潟水俣病とは、どのような公害だったのか。**		ワークシート
	阿賀野川と人々の暮らしはどのように結びついていたのか。		スライド（教師作成）
	○阿賀野川と人々の暮らしについて，スライドで説明する。（右はスライドの一例）	●説明 ・阿賀野川は生活の場，タンパク源だった。 	
	新潟水俣病が発生した原因は何か。		
	○新潟水俣病の発生原因について資料で調べる。（次ページは授業の様子）	●昭和電工から出されたメチル水銀を含む排水が原因である。 ●メチル水銀に汚染された川魚を大量に食べた人が発症した。（次ページはスライドの一例）	初めての新潟水俣病

		 これからのどのようなテーマで学習していくか。 ○総合的な学習のテーマについて	●テーマ ①環境を守ることの大切さ ②水俣病被害者の人権	新潟水俣病 20 の疑問
まとめ 振り返り (10)	（まとめ） ・新潟水俣病とはメチル水銀を原因とする公害 ・新潟水俣病により、差別や偏見が生まれ、現在も苦しんでいる人々がいる。 ○授業を通して考えたことを書く。 ○ワークシートを回収し，数名の意見を発表する。	●生徒の反応 ・手足のしびれ，震えなどいろいろな症状で今も苦しんでいる人がいることがわかった。 ・これからの新潟のためにも，水俣病への理解をもっと深めていきたいと思った。	スライド（教師作成） ワークシート

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・水俣病に限らず、他の公害も多くの原因は人間がゴミを捨てたり、環境に配慮せず効率を優先したりした事で起きたものなので、地球にいる以上環境を壊さないようにする事が大切だと思いました。これからは昔に起きた過ちを二度と繰り返さないようにしようと思いました。そのために昔の事をよく知り、これからしっかり対策していこうと思いました。また他の人に知ってもらうためによびかけをしたり、それを知るためのイベントに参加して知ってもらうようにしたりと、そういう人たちが増えていけば良いなと思いました。

・水俣病の学習を通して、大きな問題について深く考える事ができました。水俣病の被害について、その被害者の辛さを改めて理解する事ができました。

・新潟水俣病の学習を通して、小学校で学習した事よりも、深く詳しく学習する事ができた。水俣病にどうして感染したのか、どうして裁判に勝てたのかなど、いろいろな事が理解できたと思います。

・水俣病で苦しんだ人がたくさんいた事が分かりました。水俣病で差別を受けていた人々は、どういう気持ちだったのだろうと考える事ができました。そして、どうすれば差別がなくなる社会を作れるのかという事も考える事ができました。



１１/９(水)事前学習、先週 学習したことを確認、



グーグルマップを使って南浜中をさがし、阿賀野川流域を地図で確認







１１/１６(水)現地学習、鹿瀬工場が見える高台で説明



現在の排水口の場所で説明



阿賀町文化福祉会館で昼食後、午前の学習のまとめをする生徒



環境と人間のふれあい館で語り部の話





２つのグループに分かれ、施設職員から説明を受ける



説明後は、各自で自由に見学

 教室内の様子



10/26(水)事前学習①「新潟水俣病について考える」
班で資料を使い調べる。



10/27(木)事前学習②「調べ学習」(下の写真を含め３枚)
４つの観点で４つのグループで調べる。









11/２(水)班に戻り、調べた内容を班員に発表する。



11/17(木)校外学習後の感想を記入する。



12/1(木)SDGs の視点から自分ができることを考える。

■様式２：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立白南中学校	担当（職・氏名）	教諭　小野里　珠里
学習テーマ	新潟水俣病に関する学習を通して，環境・人権・自分の生き方について考えよう。		
活動のねらい	新潟水俣病に関する調査活動を通して，水俣病が発生した当時の社会的背景や環境問題、人権問題を理解し，自然環境の在り方や人権について考えるとともに，自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

「環境と人間のふれあい館」を訪問し，水俣病に対する理解を深めることで人権に対する意識を高める。また，当時の人々の暮らしや社会の流れ，環境に対する意識など多角的観点から水俣病について考える。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・読み物資料やＤＶＤから新潟水俣病について知る。
・新潟水俣病に関する疑問点と課題を見つける。
・校外学習（「環境と人間のふれあい館」へ訪問）を行い，詳しく学ぶ。
・新潟水俣病についてまとめ，発表し，振り返る。

○　活動詳細

①日本で過去に発生した公害病についてタブレットを使って調べ学習を行う。
②環境と人間のふれあい館 HP 掲載の新潟水俣病の学習の導入のための動画や「生きるⅣ」を使って，新潟水俣病についての概要を学習する。
③ＤＶＤを用いて新潟水俣病発生前後の，社会全体，人々の暮らし，人権と環境に対する意識などについて調べ，疑問点と課題を見つけてまとめる。
④「環境と人間のふれあい館」へ行き，語り部さんから直接お話を伺い，水俣病について正しく理解する。
⑤新潟水俣病の学習と合わせて、現在世界で発生している水俣病や環境破壊の問題について学習する。
⑥これまでの学びをまとめるとともに，環境と人権の２つの視点から，今後どのような姿勢で自らが関わっていきたいと考えるのかをプレゼンテーション形式で発表する。

実施期間	９月～12 月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病について知る	３	・公害病がどのような時代背景の中で発生しているのかを学ばせる。 ・「環境と人間のふれあい館」HP の学習導入用動画や「生きるⅣ」で新潟水俣病についての概要を学ばせる。 ・水俣病患者に対する差別や偏見があることを理解させる。 ・「新潟水俣病」のＤＶＤを視聴させ，原因，当時の社会

		的背景，水俣病について詳しくとらえさせる。 ・学んだことをワークシートにまとめさせる。
校外学習	５	・資料館を訪問し，提示資料，ゲストティーチャーなどから幅広く情報を収集させる。
まとめる	３	・世界で現在発生している環境破壊の問題や水俣病について動画を視聴して学ばせる。 ・読み物や資料館，ゲストティーチャー，学習用動画(DVD)で得た情報をもとに，環境問題・人権問題について，今後の関わり方についてスライドでまとめさせる。
発表する・振り返る	３	・作成したスライドを使って，「環境と人権の視点から自分が今後大切にしていきたいこと」についてのプレゼンテーションを行う。 ・３～４人のグループを作り，iPad を使ってグループ内発表をさせる。その後，各班代表一名を選ばせて，大型モニターに iPad を拡大表示し，学級全体に向けて発表させる。

○　協力団体・協力者等

・環境と人間ふれあい館

・同館の語り部１名（曽我　浩様）

○　成果と課題

＜成果＞

・学習用動画や読み物資料やＤＶＤなどを活用し，日本で発生した公害病や新潟水俣病の発生原因を知り，依然として患者に対する偏見や差別があることを理解し，人権意識を高めることができた。

・「環境と人間のふれあい館」を訪れ，展示資料を見たり語り部から話を聴いたりする活動を通して，新潟水俣病を含めた環境問題について理解を深めることができた。

・これまでの学びをタブレット（ロイロノート）にまとめ，グループごとに発表する活動を通して，新潟水俣病への見方や考え方を生徒同士で共有することができた。

＜課題＞

・当初予定していた実施期間が変更になり,現地学習で福島潟の散策を行うことができなかった。実際に自然と触れ合う時間を設けることで，経済活動の推進と環境保全の両面から学習を進めることができればよかった。

提出締切　令和５年２月８日（水）

＜写真資料＞　環境と人間のふれあい館で展示資料の説明を受ける生徒の様子



語り部さんの話を聞きながら，メモをとる生徒の様子



世界で発生している環境問題と水俣病についての動画を視聴する生徒の様子



発表会の様子（タブレットと大型 TV を用いて）



発表会での生徒のスライド

アマゾン川でも水俣病のような症状の出ている人がいることを知りました。森林の伐採や違法なことをして環境が破壊されてそれが人々にも大きな影響を与えていてとても悪いことだと思いました。
語り部さんはできるだけ農薬を使わないようにしているとおっしゃっていてすごいと思ったし、私も見習ってできるだけ環境を壊さないような生活をしていきたいです。自然の資源がないと人は生活していくことができないから資源を大切にしていきたいと思いました。
新潟水俣病にかかって、体も辛いのに差別や偏見で心も傷ついている人がいるのはとても切ないと思いました。日本で起きた水俣病とアマゾン川で起こっている病気が似ているから、日本は水俣病のことについてアマゾンの人に伝えていくことがとても大切だと感じました。このままだとどんどん環境が破壊されていき、地球が住めない星になってしまうのではないかと思いました。そうならないように1人1人が環境を破壊しないような生活を心がけていくことが大切だと思います。

水俣病について学習して、水銀だけで心も体も汚染されるんだなと思いました。辛いのに水俣病ということを信じてもらえず差別や偏見でもっと辛い思いをしていたのだと分かりました。
そして、アマゾンでも同じように水銀が流されて川が汚染されたり、森林伐採で環境が破壊されたりなど、世界でもかなりの問題になっていると分かりました。
今回水俣病のことについて深く考えてみて、もっと色々な人に知ってもらいたいと思いました。この水俣病の学習をしているのは新潟と熊本くらいだと思うので出来れば誰もが知るようなことになってほしいと感じました。患者さんたちは皆さん高齢なので昔の水俣病の問題について知っている人は少なくなっていると思います。ただ、水俣病がなくなっても忘れてはいけない出来事だろうし、アマゾンでは今でも問題になっているので、日本でもまた起こる可能性は0ではないと思います。なのでこれからも水俣病について深く考えていきたいと思います。

学習するまでは、水俣病はもうとっくに昔の出来事だと思っていたけれど、学習してみてまだまだ患者さんがいるし、治療の方法もないことを知って驚きました。
当時は水俣病に対する理解がまだ浅くて差別や偏見が起こってしまったのは仕方がないことだと思うけれど、患者さんの気持ちを考えてみると、とても悲しいし心の辛さや不安はとても深く、計り知れないものだと感じました。今でも差別や偏見が起こっているのは驚いたし、私自身も変なうわさ話など簡単に信用して勝手に信じこんだりしないようにしたいと思いました。水俣病に対して、正しい知識を持って差別や偏見をしない人が増えたらいいなと思いました。周囲の人との助け合いや思いやりの精神、環境も大切にしていきたいです。

■様式３：令和４年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立白南中学校	**1年A組（29 名）**	**10 月 18 日**	**総合**	**教諭　小野里　珠里**

・単元名　新潟水俣病について詳しく知ろう　―ＤＶＤ「未来を見つめる旅～新潟水俣病から学ぶ人と環境のあした～」を視聴して―

・ねらい　新潟水俣病に関するＤＶＤを視聴する活動を通して，新潟水俣病には環境問題や人権問題があることを理解し，自然環境の在り方や人権について考えるとともに，自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

<table>
<tr><th>配時（分）</th><th>教師の働き掛け</th><th>子どもの反応（学習活動等）</th><th>資料</th></tr>
<tr><td rowspan="2">20</td><td>・ワークシートを配付し，ＤＶＤを視聴させる。
新潟水俣病の発生原因や病気の症状は何でしょうか。
○ＤＶＤを視聴しながら，新潟水俣病の発生原因や，病状が何かを探らせる。</td><td>●阿賀野川上流で旧昭和電工が排水した汚水（メチル水銀）で育ったプランクトンを魚が食べ，さらにその魚を食べたことが原因で，多くの人々が発症したことを確認する。
●手足のしびれや震え，視界が狭くなる，耳が聞こえにくくなる，頭痛，めまいなどといった症状があり，人によって異なる。</td><td>・P128～133の資料</td></tr>
<tr><td colspan="3"> 
DVD を視聴する生徒の様子（左写真）
ワークシートのまとめと感想を発表し合う生徒の様子（右写真）</td></tr>
<tr><td>20</td><td>○新潟水俣病には身体的な問題だけでなく，心の問題が潜んでいることに気付かせる。
（学習課題）
現在も残る新潟水俣病に関する人権問題とは何でしょうか。
また，被害者たちはどのような行動を起こしたのでしょうか。
○被害者は問題解決のために立ち上がった人々もいるが，完全な解決には至っておらず，依然として多くの人々が苦しんでいることに気付かせる。</td><td>●いわれのない差別や偏見，根拠のないうわさ，仕事ができないなどの心の問題が残っておりそれらが人権問題であることに気付く。
●被害者の中には，国や旧昭和電工を相手に裁判を起こした人たちがいる。
●裁判を起こしても，ニセ患者，賠償金めあてなどと偏見をもたれてしまった人々がいる。</td><td>・P145 の資料
・P67 の資料</td></tr>
</table>



「新潟水俣病」について知ろう①

1年A組

新潟水俣病・・・日本における四大公害病の一つ。

イタイイタイ病
富山 県神通川流域
政府認定：1968年5月
原因物質：カドミウム
原因企業：三井金属鉱業

新潟水俣病
新潟 県阿賀野川流域
政府認定：1968年9月
原因物質：メチル水銀
原因企業：昭和電工

ビニル製品やプラスチック製品の原料となるアセトアルデヒドを作るために必要だった。

金属を生産する過程で、鉱石から金属を取り出す作業（＝製錬）で出た未処理水を川に流したが、その中に含まれていた。

四日市ぜんそく
三重 県四日市市
市認定：1965年2月
原因物質：硫黄酸化物
原因企業：三菱油化、三菱化成工業、三菱モンサント化成、昭和四日市石油、石原産業、中部電力

四日市コンビナート（＝工場が集まったもの）を動かすエネルギー源として、石炭のように黒い煙を出さず、値段の安い中東産の原油が必要だった。中東産の原油には、硫黄が多く含まれていた。

水俣病
熊本 県水俣市
政府認定：1968年9月
原因物質：水銀
原因企業：チッソ

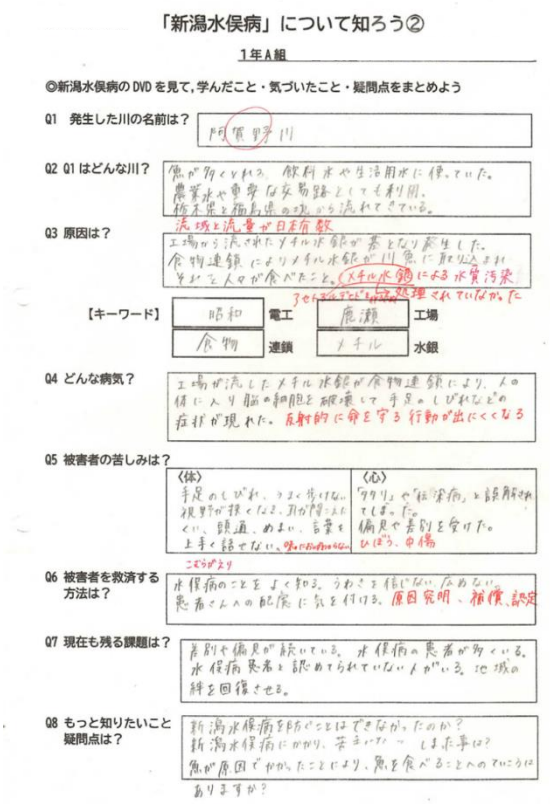
公害とは・・・人間、特に企業の生産活動や日常生活が行われる過程で、自然環境が悪化すること。また、人々の生活や健康も脅（おびや）かされること。

↓

その結果として発生した病気を 公害病 と呼ぶ。

なぜ、公害病は発生してしまったのだろうか？ 防ぐことはできなかったのだろうか？

できる
有毒なものをそのままにせず処理していれば発生しなかった。
できなかった
当時の技術では有害なものを処理できなかった。



「新潟水俣病」について知ろう②

1年A組

◎新潟水俣病のDVDを見て，学んだこと・気づいたこと・疑問点をまとめよう

Q1 発生した川の名前は？ 阿賀野川

Q2 Q1はどんな川？ 魚がたくさんとれる。飲料水や生活用水に使っていた。農業用水や重要な水運路としても利用。栃木県と福島県の山から流れてきている。

Q3 原因は？ 流域と流量が日本有数。工場から流されたメチル水銀が蓄積となり発生した。食物連鎖によりメチル水銀が川魚に取り込まれ、それを人々が食べたこと。メチル水銀による水質汚染。

【キーワード】 昭和 電工 鹿瀬 工場 食物 連鎖 メチル 水銀

Q4 どんな病気？ 工場が流したメチル水銀が食物連鎖により、人の体に入り脳の細胞を破壊して手足のしびれなどの症状が現れた。危険的に命を守る行動が出にくくなる

Q5 被害者の苦しみは？ 〈体〉手足のしびれ、うまく歩けない、視野が狭くなる、耳が聞こえにくい、頭痛、めまい、言葉を上手く話せない。 〈心〉「ケガリ」や「狂病病」と誤解され てしまった。偏見や差別を受けた。ひぼう、中傷

Q6 被害者を救済する方法は？ 水俣病のことをよく知る。うわさを信じない、広めない。患者さんへの配慮に気を付ける。原因究明、補償、認定

Q7 現在も残る課題は？ 差別や偏見が続いている。水俣病の患者が多くいる。水俣病患者と認められていない人がいる。地域の絆を回復させる。

Q8 もっと知りたいこと 疑問点は？ 新潟水俣病を防ぐことはできなかったのか？ 新潟水俣病にかかり、苦しんだ～ した事は？ 魚が原因でかかったことにより、魚を食べることへのていこうはありますか？

10	ＤＶＤを視聴して，あなたが新潟水俣病について学んだことは何ですか。 また，自分たちにできることは何ですか。		
	○ＤＶＤ全体を視聴して，感じたこと，学んだことは何かを考えさせ言語化させる。 ・自分たちにできることは何かを考えさせる。	●自然の恵みをいただいた人たちが苦しんだり亡くなったりしたのに驚いたし，今も多くの人たちが苦しんでいることを理解した。 ●新潟水俣病について深く知ることが大切だし，差別や偏見をしてはいけない。	

・授業後の子どもたちの考え等（ロイロノート作文より）

・一番印象的だったのは，胎児性水俣病についてのお話でした。生まれた時から体が不自由で思うような生活ができないのはとても残酷で許せないことだと感じました。今も苦しんでいる患者さんたちや未来の社会のために，国だけでなく一人一人が声を出す必要があると思います。そのためにも，正しい知識を得てたくさんの人に広く知ってもらう必要があると思いました。

・新潟水俣病は過去に起きたことだと思っていましたが，現在もいまだに症状が治まっていなかったり，心が傷ついたままの方々がいることを知りました。また，この病気が人間が生み出した公害病であることに驚きました。最初は原因が分からなかったせいで，ひどい差別や偏見が起きてしまいました。当時の日本の経済や環境問題への意識を考えると，避けることができなかったのかもしれませんが，工場での生産をすぐに止めて調査したり，お互いのことを理解し合ったりすれば，被害はもっと少なかったのかもしれないとも思いました。

令和４年度
小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業
地域の特色を活かした環境学習支援事業
実施報告書

主催・制作　新潟県、新潟市
発　行　　新潟県立環境と人間のふれあい館
〒950-3324　新潟市北区前新田字新々囲乙 364-7
☎ 025-387-1450　　メール fureai@abeam.ocn.ne.jp